

平成 25 年度 調査研究

学校間の接続に関する調査研究

道徳

埼玉県立総合教育センター
教育課程担当

【道 徳】

1 調査研究の視点

小中学校の児童生徒の健やかな成長を目指すに当たり、道徳教育の充実は不可欠であり、小中学校の連携による取組の必要性が指摘されるが、推進状況は十分ではない。道徳教育の目標に示されているように、学校における道徳教育は道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、(外国語活動、) 総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の発達の段階を考慮して、適切に指導を行わなければならない。

この教育活動全体を通して、共通理解のもと、学校全体で取り組めるよさは、道徳教育の特質の一つである。教科担任による指導体制をとる中学校においては、学校全体で、特定の教科を中心とした学校研究を推進することは難しいが、道徳教育、道徳の時間についての研究は、共通の方針で取り組み、成果として教師自身の資質向上と生徒の健やかな成長を共有することができる。学校間連携による道徳教育の推進も同様である。道徳教育の連続性、一貫性の観点から、共通の方針で小中学校が連携して取り組むことにより、家庭、地域社会を巻き込んで中学校区を一つにまとめることにつながる。

道徳教育及び道徳の時間の特質を生かした小中学校の滑らかな接続を調査研究の視点とする。

2 研究テーマ

道徳の特質等を生かした小中学校間における滑らかな接続に関する調査研究

本研究では、小中学校の滑らかな接続を妨げている一因が、小中学校の教員間の意識の違いと、学校種間での児童生徒理解、教育活動の共通理解の不足等があるととらえた。そこで、平成 24・25 年度の 2 か年で、接続期における児童生徒の意識調査、接続期に対する小中学校の教師の意識調査を実施、分析し、道徳教育における小中学校間の滑らかな接続を推進するための具体的な方策について、研究をすすめた。

3 昨年度の取組

(1) 小中学校間の接続に係る実態の把握

① 学校間の接続に係る児童生徒意識調査より

- ・自己肯定感が低下していく児童生徒の実態をふまえて、道徳の時間等の具体的な取組の必要性が確認できた。

- ・小学校 6 年、中 1、中 3、高 1 の回答を比較すると、学年の段階が上がるに従い、肯定的な回答の割合が低下する。特に小中学校の接続期（小 6 → 中 1）において、肯定的な回答の割合が大きく低下する項目が多い。やはり、児童生徒の中の「中 1 ギャップ」が数値として表れている。

- ・小中学校の接続期（小 6 → 中 1）において、特に自尊感情、自己肯定感を問う質問項目の回答では、低下傾向が強く表れた。

② 小中学校間の接続に係る小中学校の教員の意識調査より

- ・小中学校教員間で接続期での意識に大きな差（教員間の「中 1 ギャップ」）があることが確認できた。

- ・「できるだけなめらかな接続を！」（小 70% 中 30%）「あってしかるべき。乗り越える力を！」（小 30% 中 70%）
- ・その一因として、小中学校相互の教育活動への理解不足、道徳の時間での取組等の理解の不足があり、あわせて共通理解を図るための機会、時間等の不足が挙げられた。

（２）調査結果をふまえた道徳教育推進による学校間連携に係る具体的方策の検討

児童生徒の自尊感情、自己肯定感の低下傾向を踏まえて、内容項目 1－（２）「希望・努力」を重点項目としてとらえ、以下の学校間連携に係る具体的方策を検討した。

① 小学校・中学校を滑らかに接続するための道徳学習モデルプラン作成

教員の意識の違い（ギャップ）解消のための具体的な方策として、各校での小中学校間の接続期における道徳学習モデルプランを作成した。

② 内容項目 1－（２）「希望・努力」に関する授業例の作成

接続期の児童生徒の実態を踏まえて、接続期（小学校第 6 学年～中学校第 1 学年）における内容項目 1－（２）「希望・努力」に係る小中の道徳の時間の授業例を作成した。

（３）成果と課題

モデルプランと授業例の有用性について、実際に活用する機会を設定し、検討、改善を図る必要がある。モデルプランについては道徳に係る研修等で実際に活用する演習等を設定すること、授業例については、複数の学級で授業を実施することにより、有用性と改善への方向性等を検討する必要がある。

4 本年度の取組

平成 25 年度は、平成 24 年度作成した、小中学校の接続期における道徳学習モデルプラン、自尊感情、自己肯定感の育成につながる内容項目 1－（２）「希望・勇気・努力」に係る授業例等の有用性について、実際に活用する機会を設定し、検証を行った。

（１）検証 1 小中連携モデルプランを活用した演習プログラムの作成・実施

小中学校の接続期における道徳学習モデルプランの有用性を研修するために、「小中連携モデルプランを活用した演習プログラム」を作成、実施して検証を行った。

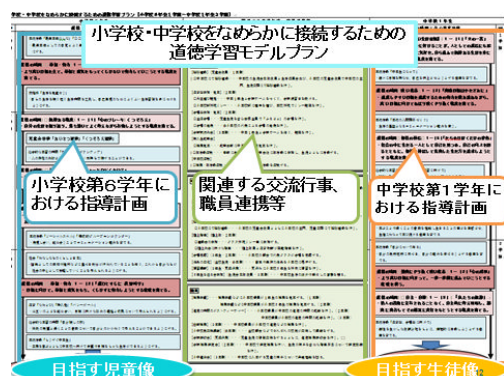
① 演習プログラム作成のねらい

モデルプラン内で示されている多様な連携に係る取組例について知ると共に、小中連携という視点で自校の取組を見直すことが可能となり、それを生かした形で、モデルプランをベースに小中学校教員が協議して連携プランを作成することを通して、互いの教育活動についての情報交換を密に図ることができる。また、自校ではない、架空の学校区を想定して協議を進めるため、客観的に小中連携推進について考える機会となる。

小中学校それぞれの道徳の時間の資料、授業の進め方等について交流を図ることにより、児童生徒の発達の段階をふまえた道徳の時間に係る相互理解が進み、授業の充実へつながる。

② 演習の内容（※【資料 1－1、2、3】参照）

平成 25 年度道徳教育推進教師研修会第 1 日目の演習として設定した。東部・西部、南部・北部管内の小中学校道徳教育推進教師（小中各 40 名）を対象として、モデルプラン（左図）



を元に、モデルプラン枠ワークシートの空欄へ、小中連携に関わる具体的取組、道徳の時間の内容を「交流行事、職員連携等」、「指導計画」に付箋で貼っていく。

その後、シートを元に、架空の中学校区の小中連携プラン案を作成していく過程で、児童生徒の実態、教育活動等の相互理解を図る。

③ 演習の実際

個人作業の様子



【個人作業】

小中連携に係る「交流行事、職員連携等」について、モデルプラン例を参考にしながら、「モデルプラン枠」にアイデアを付箋で集約する。

グループ協議①②



【グループ協議①】

小中学校教諭混合のグループで、各自の作成した「モデルプラン案」を説明し合い、それぞれの教育活動についての情報交換を行う。

【グループ協議②】

グループで、新たに、実在しない〇〇中学校区小中連携モデルプラン案を作成する。付箋を使い、それぞれのアイデアを1つのシートに集約していく。

グループ協議③

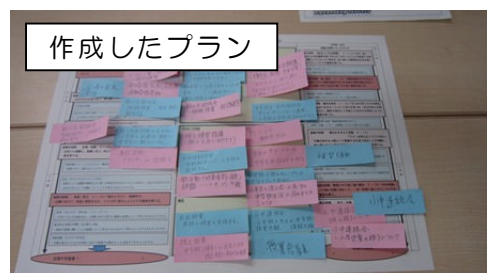


【グループ協議③】

枠の中央、小中連携に係る「交流行事、職員連携等」から作成する。その後、「小学校第6学年における（道徳の）指導計画」、「中学校第1学年における（道徳の）指導計画」を検討する。

指導計画を検討する際、小中学校相互の道徳の時間の進め方や、「彩の国の道徳」等の内容についても、情報交換できる。

作成したプラン



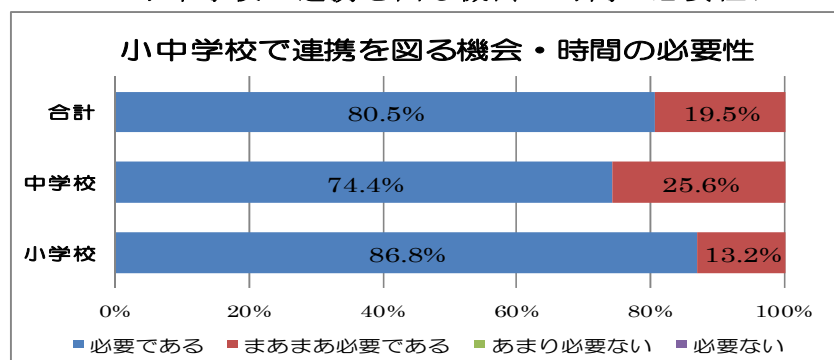
【演習後の各グループのワークシート】

共同で作成したプランは、コピーして各研修生に戻す。それぞれが持ち帰って、各学校区における小中連携について検討するときの材料にできる。

④ 効果検証演習プログラム実施後の教員アンケートより（※【資料1-6】参照）

効果を検証するため、参加者に対して以下の3視点から、演習後の小中連携に係る意識調査を行った。

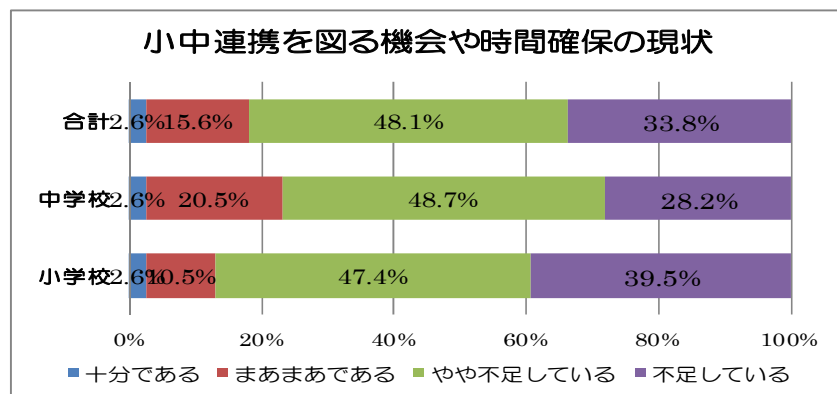
ア 小中学校で連携を図る機会・時間の必要性について



小中学校で連携を図る機会・必要性については、小中共に演習参加者の100%が小中学校での連携は必要であると回答した。

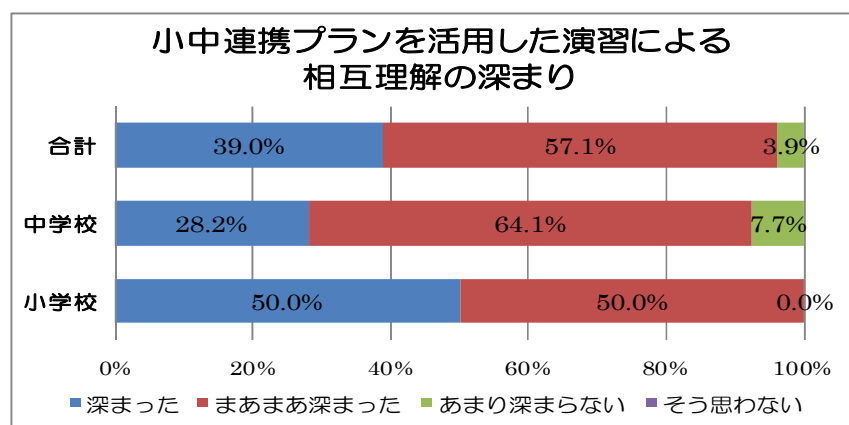
特に小学校教員の方が中学校教員に比べて、より強く必要性を感じていることが分かった。

イ 小中連携を図る機会や時間確保の現状について



小中学校教員共に、連携する機会や時間が不足していると感じる回答の割合は高かった。「不足している」、「やや不足している」回答の割合…小中全体 82%) 小中学校を比較すると(「不足している」、「やや不足している」回答の割合…小 87%、中 77%)、小学校教員の方が強く感じている。

ウ 小中連携プランを活用した演習による相互連携の深まりについて



連携に関するプランを活用した演習の有用性については、肯定的な回答が小中全体で 96% (小 100%、中 92%)、と高い数値を示した。

小中連携を図る機会や時間の必要性を実感し、かつ機会・時間の確保が難しい現状がある。このモデルプラン活用による演習は、小中学校相互の教育活動、児童生徒、道徳の時間等について、理解を深める機会、時間になると考えられる。

エ 自由記述に見られる演習参加者の反応(※ 参加者の記述より)

- ・モデルプランを活用した演習が、小中の教員同士の連携の機会として、有効であった。演習参加者の中に「こういう取組があるんだ」「連携できるところはたくさんあるんだな」という「気づき」が生まれた。
- ・小中学校の教職員が話し合える機会があれば、小中連携が更に進んでいくと実感していた。一つでも今年中に始められたらと思った。毎年毎年少しずつ増やしていきたい。

(2) 検証2 自己肯定感、自尊感情等の向上を目指す授業例検証

自尊感情、自己肯定感の育成につながる内容項目 1-(2)「希望・勇気・努力」に係る道徳の時間の授業例(小学校第 6 学年授業例、中学校第 1 学年授業例)について、その有用性を検証するために複数の学級で検証授業を行った。

① 授業例の有用性について(検証のねらい)

自尊感情、自己肯定感の醸成に、深く関連する内容項目であり、接続期に重点的に扱うべき内容である。しかし、接続期である中学校第 1 学年では、生徒指導上の視点から、基本的生活習慣、礼儀等、規律ある態度育成等に関わる指導を重視する傾向が強く、1-(2)の授業充実に十分に時間が割けない現状がある。

本研究で示す授業例をベースに授業充実を図ることは、短時間で重点的な指導を可能にする。接続期の児童生徒の様々な不安解消に向けた授業充実の支援につながるツールとして期待できる。

② 検証授業の実際(※【資料 2-1、3】参照)

- ・実施学級数等 小学校 3 校 7 学級、中学校 2 校 7 学級
- ・実施時期 平成 25 年 10 月～12 月

※【小学校授業例について】

- 1 主題名 自分の目標に向かって [内容項目 1－(2) 希望・努力]
- 2 資料名 「道ひとすじに ー日本最初の公認女性医師 荻野吟子ー」
出典：彩の国の道徳 高学年 「夢にむかって」
- 3 ねらい
希望をもち続け、くじけずに努力して自らの課題に立ち向かおうとする意欲を育てる。
- 4 小中連携に係る視点
小中学校接続期には、大きな環境の変化や思うようにいかない現実にあふつかることがある。しかし、勇気と希望をもって努力し続けることができれば、それらの壁を前向きに乗り越えることができ、自分の成長の糧にすることができる。計画的に努力目標を立てたり、理想に向かってくじけずに着実に前進していったりする強い意志と実行力を育て、思い通りにならない局面を乗り越えることができるしなやかな心を養いたい。



※【中学校授業例について】

- 1 主題名 着実にやり抜く強い意志 内容項目 1－(2)
- 2 資料名 「心の涼風」 出典 彩の国の道徳 中学校「自分を見つめて」
- 3 ねらい より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う
- 4 小中連携に係る視点
生徒にとって同質性の高い資料で、より良い生き方を求めて自分の切実な問題として自覚を深めさせることができる。中学生になると思い通りにならないことがあるとわかってくるが、それでも一步一步努力して前進していくことが大切だと考えさせたい。誰もが抱える不安が資料と重なる。失敗は成功への過程である。過程が大切だと考えさせたい。

③ 検証授業についての考察（※【資料 2－2、4】参照）

ア 児童生徒の様子等から

「夢は諦めなければ叶う」「夢に向かってがんばることが大切」ということに気づき、「いつもは途中で諦めてしまうけど、今日勉強してみて、諦めないでがんばろうと思った」など、困難があってもくじけずに努力しようと考えた児童が多かった。

夢をもつことや夢に向かって努力することや継続的に力を尽くすことの「良さ」を感じ、自分もなんとかがんばろうというポジティブな思考をもつ児童が多かった。

自尊感情の高まりや 1－(2) のねらいに迫る発言が多く見られた。このことが、中 1 ギャップ解消につながると考えられる。有用性があると言える。

イ 授業者の事後アンケート等から

活用事例や板書計画などが用意されていると、教師も安心して授業を進めることができ、その余裕が児童たちの活発な発言につながった。授業例を活用することによる授業の充実が図れたといえる。授業例の有用性が見られた。【小】

授業例では、様々な話合いの形式が工夫されていることが特色である。ロールプレイや班活動を取り入れることで、様々な視点から多様な意見を引き出せるような工夫があり、経験が浅い教師であっても取り組みやすい。事前や事後の取組も紹介することで、より効果が出やすくなっている。【中】

5 本年度の成果と課題（※【資料 2－3、6】参照）

（1）検証 1 に係る成果と課題

◎小中連携モデルプランの有用性について、プラン活用による演習プログラムを研修会に設定し、検証した結果、相互の教育活動を理解し合う機会となり、小中学校教員間にある「中 1 ギャップ」に対する「意識のギャップ」解消のきっかけとなることを、演習参加者の反応等から確認できた。 【小中学校の相互理解に係る有用性】

◎演習後の第 2 回道徳教育推進教師研修会では、小中連携の視点に関する報告項目を設け、自校の連携に係る取組を改めて見直す機会と、さらに具体的な連携に係る取組の情報共有の機会とした。6 月の演習を踏まえて、10 月の実践報告において、実際に小中連携を進めた学校も数多く見られた。 【各学校での具体的取組充実への有用性】

△今後は、さらにモデルプランを活用した演習を継続して実施するとともに、各学校区でモデルプランを活用し、実際に「小中学校の接続期における道徳指導計画」の作成、研究校等での小中連携による道徳に係る取組成功例などの積極的な発信が必要になる。 【積極的な発信の必要性】

（2）検証 2 に係る成果と課題

◎児童生徒の自尊感情、自己肯定感の低くなる小中学校接続期において、1－（2）「希望・努力」に係る授業例を活用し、道徳の時間の授業充実を図ることの有用性が、児童生徒の様子から確認できた。 【自己肯定感・自尊感情育成に関する有用性】

◎授業例を活用して、各学校で検証授業を実施したが、接続期における重点的に指導を行う内容項目とねらい、ねらいに沿った発問例、板書例等、ベースとなる道徳の時間の形を示すことにより、それをベースに授業の充実が図れた。授業例について、一定の有用性が見られた。 【1－（2）「努力・希望」に係る授業例の有用性】

△授業例の中で「中 1 ギャップの軽減」についての視点を、強くアナウンスする必要があった。授業者にはそれぞれのやり方があるため、発問や流れ等はあくまで例として軽く示し、小中連携や自尊感情の育成等に関する部分を「ここを外さなければ効果がねえます」等の形で、明確に示す必要があった。 【指導上の配慮事項①】

△小学校授業例のように偉人の生き方からの学ぶ道徳の時間の場合、「目の前の課題を乗り越える、小さな努力を重ねていくこと」がギャップをうめることにつながることを児童に意識させることは難しい。終末等で、ねらいに関わる適切な教師の説話が必要になる。中学校授業例で扱った読み物資料では、話合いの過程で、「友情・信頼」の内容項目へ話合いの方向性がずれ、十分に深まらない恐れがあるので、教師が明確に指導観をもって取り組むことが必要となる。 【指導上の配慮事項②】

6 研究のまとめ

平成 25 年度は、前年に作成したモデルプラン、授業例について、実際に活用する機会を設定、検証した結果、その有用性が確認できた。

児童生徒の自尊感情、自己肯定感は、要としての道徳の時間の充実と共に、事前や事後の取組も含めて、教育活動全体で育んでいく必要がある。本研究で示した小中連携モデルプランをベースに、小中連携に関するプランを作成し、他の領域と関連づけ、教育活動全体で指導をすすめることで、児童生徒の自己有用感、自尊感情を育み、道徳の特質等を生かした小中学校間における滑らかな接続へと確実につながる。

教員の多忙感とその背景にある教員の職務の多様化、時間不足等は解消していない現状がある反面、道徳の教科化に向けた国の動向をふまえた道徳教育の充実のための具体的取組は求められる。本研究の成果を生かして、継続的な演習の実施することや研究校等で作成したプランを発信することなど、道徳の特質等を生かした小中学校間における滑らかな接続に関する研究を進めていく。

道徳の特質等を生かした小中学校間における 滑らかな接続に関する調査研究 【資料】

検証 1 小中連携モデルプランを活用した演習プログラムに関する資料

- ・【資料 1－1】モデルプランを活用した演習プログラム（プレゼン資料）
- ・【資料 1－2】小学校・中学校をなめらかに接続するための道徳学習プラン（※ モデルプラン）
- ・【資料 1－3】演習モデルプラン枠
- ・【資料 1－4】モデルプランを活用し作成した小中連携プラン例①②
- ・【資料 1－5】小中学校間の接続に係る小中学校の教員の意識調査用紙
- ・【資料 1－6】小中学校間の接続に係る小中学校の教員の意識調査結果
- ・【資料 1－7】小中学校の滑らかな接続のための道徳学習プラン作成シート（※ 各校での研修用ワークシート）

検証 2 自己肯定感、自尊感情等の向上を目指す授業例検証に関する資料

- ・【資料 2－1】小学校第 6 学年授業例 内容項目 1-(2)に係る活用事例
- ・【資料 2－2】調査研究（道徳）検証授業に関する考察等（小学校①②③）
- ・【資料 2－3】小学校授業例を生かした検証授業についての成果と課題
- ・【資料 2－4】中学校第 1 学年授業例 内容項目 1-(2)に係る活用事例
- ・【資料 2－5】調査研究（道徳）検証授業に関する考察等（中学校①②）
- ・【資料 2－6】中学校授業例を生かした検証授業についての成果と課題

※ 研究に関わる参考文献 等

- ・「小学校学習指導要領解説 道徳編」（平成 20 年 8 月 文科省）
- ・「中学校学習指導要領解説 道徳編」（平成 20 年 9 月 文科省）
- ・「埼玉県小・中学校教育課程編成要領」（平成 21 年 3 月 県教委）
- ・「埼玉県小・中学校教育課程指導資料」（平成 22 年 3 月 県教委）
- ・「埼玉県小・中学校教育課程評価資料」（平成 23 年 3 月 県教委）
- ・「埼玉県小・中学校教育課程実践事例集」（平成 24 年 3 月 県教委）
- ・「彩の国の道徳 教師用指導資料」（平成 22 年 2 月 県教委）

「彩の国」さいたま
埼玉県

小中連携モデルプランを
活用した研修プレゼン資料

平成25年度 道徳教育推進教師研修会 講義・演習

小中連携による道徳教育の充実
【演習】小中連携プランの作成

道徳の特質等を生かした小中学校間における
滑らかな接続に関する調査研究報告(H25)より

県立総合教育センター 教育課程担当

埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

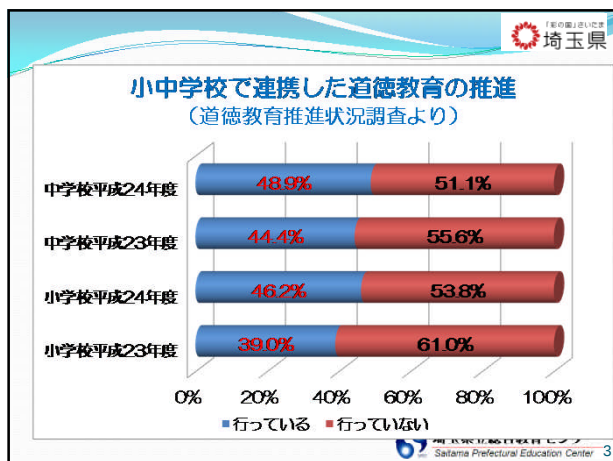
1

「彩の国」さいたま
埼玉県

小中連携による道徳教育を推進して
いますか。

埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

2



「彩の国」さいたま
埼玉県

県立総合教育センター調査研究事業(H24・25)
「道徳の特質等を生かした小中学校間における
滑らかな接続に関する調査研究」より

【趣旨】

小中学校の児童生徒の健やかな成長を目指すに当たり、道徳教育の充実是不可欠であり、**小中学校の連携による取組推進の必要性が指摘されるが、推進状況は十分ではない**。本研究では、**その一因に小中学校の教員間の意識の違いと、学校種間での児童生徒理解、教育活動の共通理解の不足等**があるととらえた。そこで、接続期における**児童生徒の意識調査、接続期に対する小中学校の教師の意識調査**を実施、分析し、道徳教育における小中学校間の滑らかな接続推進のための**具体的な方策についての研究**をすすめた。

埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

4

「彩の国」さいたま
埼玉県

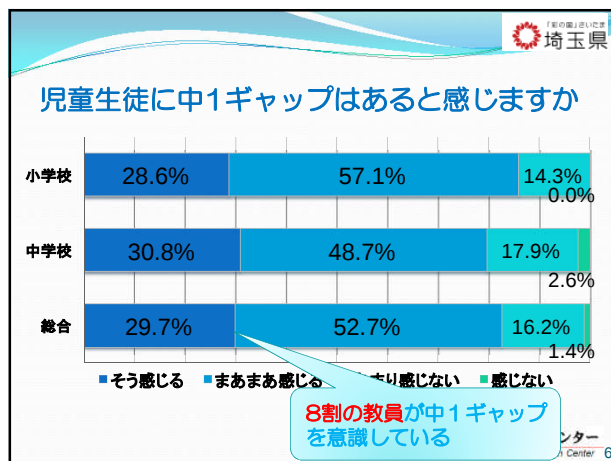
中1ギャップに関する意識調査

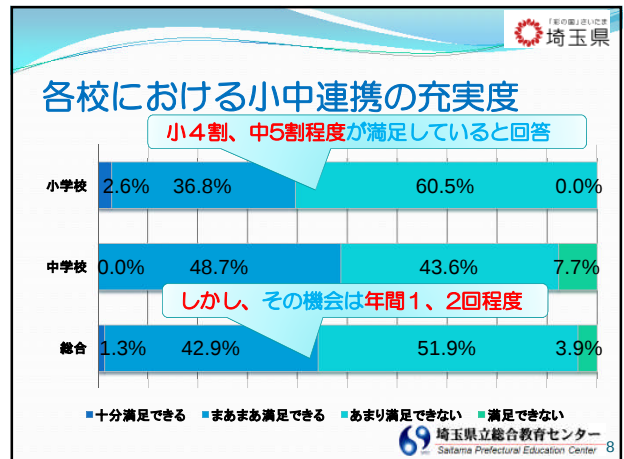
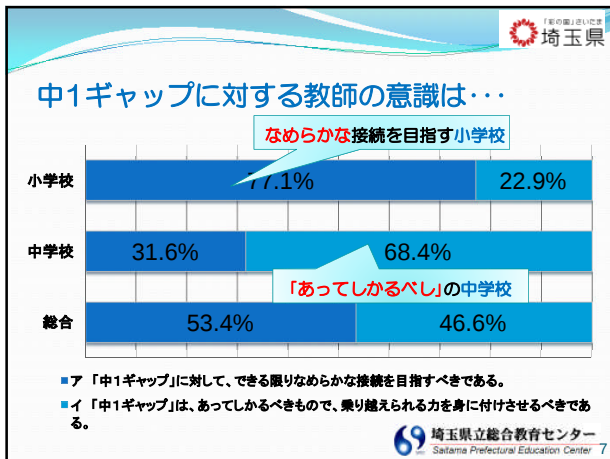
☆平成24年度 調査研究事業より

- 【調査対象】
平成24年度道徳教育推進教師研修会参加者である、県内東西南北事務所から推薦された道徳教育推進教師78名を対象に実施
- 【調査時期】
平成24年10月下旬
- 【調査方法及び内容】
質問紙調査

埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

5





「前の国」さいたま 埼玉県

小中連携が進まない理由(自由記述より)

- 「時間的余裕がない」
- 「連携する機会がない」
- 「教員同士の意識の違い」
- 「共通理解の不足」
- 「生徒指導、生活指導上の共通の約束事等の不足」等の現状

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 9

「前の国」さいたま 埼玉県

まとめると…

- ①小中学校教員間で接続期での意識に大きな差(教員間の「中1ギャップ」)があるといえる。
→小「なめらかに」中「あってしかるべき」
- ②意識の差の一因として、以下のことがあげられる。
小中学校相互への理解不足
道徳の時間における取組等への理解不足
共通理解を図るための機会、時間等の不足

教員の意識のギャップ解消のための具体的な方策として、小中連携モデルプランを提示ツールとして活用を!

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 10

「前の国」さいたま 埼玉県

【演習】

〇〇中学校区の小中連携プラン(推進計画)を立ててみよう!

【ねらい】小中学校相互での共通理解を図る機会に!

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 11

「前の国」さいたま 埼玉県

小中学校をなめらかに接続するための道徳学習モデルプラン

小学校第6学年における指導計画

関連する交流行事、職員連携等

中学校第1学年における指導計画

目指す児童像

目指す生徒像

12

【連携プラン作成演習の流れ】

☆グループ分け

1 個人作業(15分) アイディアを…
(モデルプランを参考に個人でプラン検討.)

2 グループ協議(30分)

- ①重点項目1ー(2)で、目指す児童・生徒像設定
- ②小中連携に係る取組設定(お互いの付箋を集めて)
- ③道徳の時間の位置づけ(時間があれば、彩の国の道徳を読み合う、年間計画を見合う)

3 プラン発表(1班3分)→午後の協議へ

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 13

☆プラン作成のイメージ

センター
69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 14

☆詳細について

話し合いながら自校の取組、モデルプランからできそうな取組を選び出す。

連携の時間 希望・努力 1ー(2)「父の思いを受け継いで」より深い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力していこうと誓う。

違う授業等を選ぶなら、付箋を上から重ねていく！

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 15

連携の全体像がつかめる、各校毎の連携プラン作成も可能です。工夫を！

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 16

【資料】研修の実際の様子

実際の演習の様子
を見てみよう！

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 17

演習1 個人作業

小中連携に係る「交流行事、職員連携等」について、モデルプラン例を参考にしながら、「モデルプラン枠」にアイディアを付箋で集約する。

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center 18

「彩の国」さいたま 埼玉県

演習2 グループ協議前半①



小中学校教諭混合のグループで、各自の作成した「モデルプラン案」を説明しあい、それぞれの教育活動についての情報交換を行う。

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

「彩の国」さいたま 埼玉県

演習2 グループ協議前半②



グループで、新たに、実在しない〇〇中学校区小中連携モデルプラン案を作成する。付箋を使い、それぞれのアイデアを1つのシートに集約していく。

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center/20

「彩の国」さいたま 埼玉県

演習2 グループ協議前半③



枠の中央、小中連携に係る「交流行事、職員連携等」から作成する。その後、「小学校第6学年における(道徳の)指導計画」、「中学校第1学年における(道徳の)指導計画」を検討する。

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center/21

「彩の国」さいたま 埼玉県

演習2 グループ協議前半④



「交流行事、職員連携等」について検討する際、〇〇中学校区の計画であるため、純粋に小中連携推進という観点から検討を行える。(校内事情等を反映させる必要がない。)

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center/22

「彩の国」さいたま 埼玉県

演習2 グループ協議前半⑤



年間計画を立てるに際し、道徳の時間の配置だけでなく、他教科等や行事、日常生活などの関連を総合的、かつ横断的な関連を視点にもち、検討をする。

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center/23

「彩の国」さいたま 埼玉県

演習2 グループ協議後半①



指導計画を検討する際、小中学校相互の道徳の時間の進め方や、「彩の国の道徳」等の内容についても、情報交換できる。

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center/24

演習2 グループ協議後半②



演習後は共同で作成したモデルプランをコピーし、それぞれが持ち帰り、各学区での小中連携推進の可能性を検討するための資料とする。

演習後のシート



小学校・中学校をなめらかに接続するための道徳学習プラン（小学校第 6 学年 1 学期～中学校第 1 学年 2 学期）

小学校 6 年生		関連する交流行事、職員連携等	中学校 1 年生	
時期	道徳の時間と他の教育活動		道徳の時間と他の教育活動	時期
1 学期		小中共通の取り組み ・埼玉県教育に関する 3 つの達成目標の規律ある態度の徹底 ・小学校中学校共通の学習規律、生活の約束の確認	道徳の時間 『望ましい生活習慣』 1 - (1) 「父の一言」 ・望ましい生活規律を身に付けることが、人としての成長にも深く関わっていることに気づき、自ら進んで規律ある生活を身に付けていこうとする態度を育てる。	1 学期
	道徳の時間 希望・努力 1 - (2) 「父の思いを受け継いで」 ・より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力していこうとする態度を育てる。	6 年生→中学校 【挨拶運動】(児童会役員・1 学期) ○中学校にて挨拶運動・・・中学校の生徒会本部役員と生活委員会及び、小学校の児童会役員で中学校の正門、生徒玄関にて挨拶運動を行う。 【体育祭参加・見学】(2 学期) ○大玉運び競走・・・中学 1 年生と合同チームをつくり、合同練習日を設定する。 ○小学校別対抗リレー・・・小学校別に選手を選び、学校対抗でリレー競技を行う。 【合唱祭参加・見学】(2 学期) ○全体合唱・・・児童生徒を含む会場全員で「ふるさと」の合唱を行う。 ○合唱の発表・・・各小学校の代表による合唱の発表を行う。 【合同駅伝大会】(3 学期)・・・中学 1 年生と合同チームを作り、競技を行う。 【新入生説明会】 ○授業見学・・・説明会前に中学生の授業見学を行う。 ○部活動体験・・・事前に希望をとり、説明会後に部活動に参加し、生徒とともに活動する。 【中学校体験】 ○授業・部活動体験・・・1 時間の授業と部活動を体験する。		
			道徳の時間 強い意志 1 - (2) 「実践目標は小さきみに」 ・達成しやすい目標を達成するための努力を積み重ねながら、高い目標に向けてねばり強くやり抜く態度を育てる。	
2 学期	道徳の時間 規律ある態度 1 - (1) 「心のブレーキ くつそろえ」 ・自分の生活を振り返り、落ち着いてよく考えながら行動しようとする態度を育てる。			2 学期
		中学生→小学校 【清掃作業】(1 年生・1 学期)・・・小学生と合同で小学校周辺および地域の公園やゴミ収集所等の清掃活動を行う 【資源回収】(全校生徒・各学期)・・・小学生と合同で母校の資源回収に参加する。 【読み聞かせ】(図書委員会・2 学期) ○読書推進活動・・・2、3 年生が小学校 6 年生に、1 年生が小学校 5 年生に朝読書で読み聞かせを行う。 【挨拶運動】(生徒会本部役員・2 学期) ○小学校にて挨拶運動・・・小学校の児童会役員とともに小学校の正門、児童玄関にて挨拶運動を行う。 【陸上指導】(陸上部・2 学期) ○運動会の参加・・・クラス対抗リレー等に参加する。 ○陸上大会に向けた指導・・・陸上部員と体育教師が技能指導を行う。 【合唱披露】(3 年生・2 学期)・・・小学校の朝会で代表クラスが合唱を披露する。 【作品の交流】(全校生徒・各学期)・・・書写や美術の作品を小学校に掲示する。 【補習講師】(2・3 年生希望者・夏季休業)・・・夏休みに小学校 6 年生を対象に補習を行う。 【6 年生を送る会参加】(生徒会本部役員・3 学期)・・・中学校生活の紹介や励ましの言葉を贈る。		
	道徳の時間 礼儀 2 - (1) 「ちょっとひどくない？」 ・自分の言葉を見つめ直し、相手の気持ちを考えて、言葉を正しく使おうとする態度を育てる。		道徳の時間 個性の伸長 1 - (5) 「きらめけばくだけの音色」 ・社会の中に生きる一人として自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。	
3 学期				2 学期
	道徳の時間 友情・信頼 2 - (3) 「友達だから」 ・お互いに理解し、信頼し合い、向上していくことができる友情関係を築こうとする態度を育てる。		道徳の時間 場をわきまえた言動 2 - (1) 『マナーは考えなくていいのか』 ・礼儀は相手を人間として尊重する行為であることを理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。	
		職員 【授業参観】・・・授業参観などに小学校職員が 1 年生の授業を見学する。(1 学期) 授業参観などに中学校職員が小学校 6 年生の授業を見学する。(2 学期) 【道徳の時間のゲストティーチャー】・・・小学校職員が中学校の道徳の時間の説話を行う。(2 学期) 中学校職員が小学校の道徳の時間の説話を行う。(3 学期) 【出前授業】(3 学期)・・・中学校職員が小学校で道徳などの授業を行う。 【小中校長交換講話】(各学期)・・・全校朝会などでそれぞれの校長が交換して講話をする。 【合同研修会】(夏季休業)・・・児童生徒の情報交換をするとともに、道徳授業研修会を行う。 【合同授業研究会】(2 学期)・・・中学校で研究授業を行い、生徒の様子を含めた指導方法について研究協議を行う。 【小中連絡会】(3 学期)・・・中学校に入学する児童の様子について共通理解を図る。		
	道徳の時間 希望・努力 1 - (2) 「道ひとすじに 荻野吟子」 ・目標に向けて、希望と勇気をもち、くじけずに努力しようとする意欲を育てる。		道徳の時間 着実にやり抜く強い意志 1 - (2) 「心の涼風」 ・より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。	
			道徳の時間 自主・自律 1 - (3) 「私たちの初詣」 ・他人の言動に左右されることなく、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。	
夢や目標に向かって努力し続ける強い意志をもった児童			高い志を持ち、夢に向かって本気で取り組む生徒	

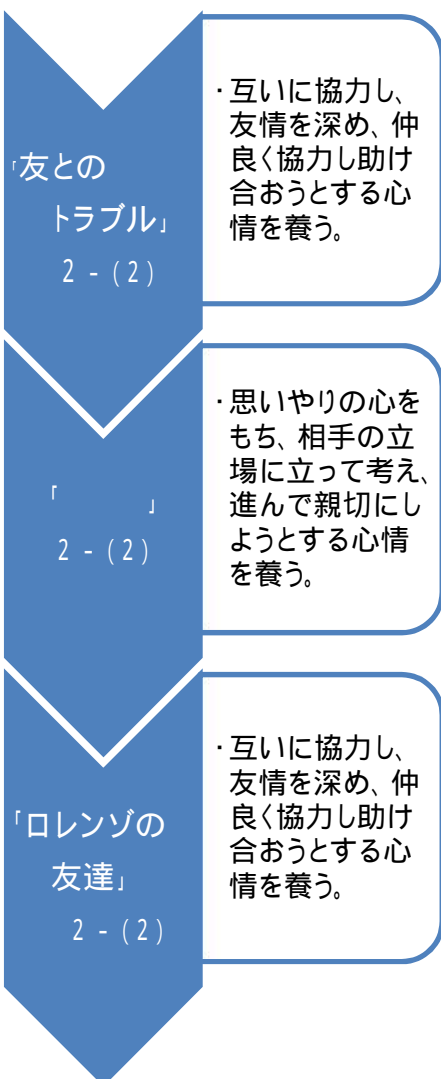
【資料１－３】			
小学校・中学校をなめらかに接続するための道徳学習プラン枠（小学校第６学年１学期～中学校第１学年２学期）		市立	小学校・中学校
小学校６年生		中学校１年生	
時期	道徳の時間と他の教育活動	道徳の時間と他の教育活動	
１学期		道徳の時間 『望ましい生活習慣』 １－（１）「父の一言」 ・望ましい生活規律を身に付けることが、人としての成長にも深く関わっていることに気付き、自ら進んで規律ある生活を身に付けていこうとする態度を育てる。	
	道徳の時間 希望・努力 １－（２）「父の思いを受け継いで」 ・より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力していこうとする態度を育てる。		
		道徳の時間 強い意志 １－（２）「実践目標は小さきみに」 ・達成しやすい目標を達成するための努力を積み重ねながら、高い目標に向けてねばり強くやり抜く態度を育てる。	
２学期	道徳の時間 規律ある態度 １－（１）「心のブレーキ くつそろえ」 ・自分の生活を振り返り、落ち着いてよく考えながら行動しようとする態度を育てる。		
		道徳の時間 個性の伸長 １－（５）「きらめけばくだけの音色」 ・社会の中に生きる一人として自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。	
	道徳の時間 礼儀 ２－（１）「ちょっとひどくない？」 ・自分の言葉を見つめ直し、相手の気持ちを考えて、言葉を正しく使おうとする態度を育てる。	道徳の時間 場をわきまえた言動 ２－（１） 「マナーは考えなくていいのか」 ・礼儀は相手を人間として尊重する行為であることを理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。	
	道徳の時間 友情・信頼 ２－（３）「友達だから」 ・お互いに理解し、信頼し合い、向上していくことができる友情関係を築こうとする態度を育てる。		
３学期		道徳の時間 着実にやり抜く強い意志 １－（２）「心の涼風」 ・より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。	
	道徳の時間 希望・努力 １－（２）「道ひとすじに 荻野吟子」 ・目標に向けて、希望と勇気もち、くじけずに努力しようとする意欲を育てる。	道徳の時間 自主・自律 １－（３） 「私たちの初詣」 ・他人の言動に左右されることなく、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。	
目指す児童像「」		目指す生徒像「」	

小学校6年生		関連する交流行事、職員連携等	中学校1年生		
時期	道徳の時間と他の教育活動		道徳の時間と他の教育活動	時期	
1 学 期	道徳の時間 希望・努力 1 - (2) 「父の思いを受け継いで」 ・より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力していこうとする態度を育てる。	小中共通の取り組み ・埼玉県教育に関する3つの達成目標の規律ある態度の徹底 ・小学校中学校共通の学習規律、生活の約束の確認	道徳の時間 『望ましい生活習慣』 1 - (1)「父の一言」 ・望ましい生活規律を身に付けることが、人としての成長にも深く関わっていることに気付き、自ら進んで規律ある生活を身に付けていこうとする態度を育てる。 道徳の時間 強い意志 1 - (2)「実践目標は小さきみに」 ・達成しやすい目標を達成するための努力を積み重ねながら、高い目標に向けてねばり強くやり抜く態度を育てる。	1 学 期	
	道徳の時間 公徳心 4 - (1)「図書館員のなやみ」 ・公徳心をもって法やきまりを守ろうとする態度を養う。 道徳の時間 生命尊重 3 - (1)「絶望の中で見つけた光」 ・生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。 道徳の時間 友情・信頼 2 - (3)「絵地図の思い出」 ・互いに信頼し学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合おうとする態度を養う。	中学生→小学校 【職業体験】(1学期)・・・中学生が3日間、児童とともに過ごす。 【作品の交流】(全校生徒・各学期)・・・書写や美術の作品を小学校に掲示する。 【吹奏楽部の演奏】(2学期)・・・小学校に行き、高学年児童に向けて、演奏する。(新人戦時) 【スリーデーマーチ】(2学期) ・・・ボランティアに参加し、スリーデーマーチに参加する小学生と交流する。 市内の中学校吹奏楽部で、合同演奏を行い、発表する。 【6年生を送る会】(生徒会本部役員・3学期)・・・手紙やビデオレターで、お祝いや励ましの言葉を贈る。 【中学校生活の紹介】(3学期)・・・学校の紹介や、部活動を中心とする中学校生活の楽しみ喜びを小学生に伝える。 ○新入生説明会で、中学校生活についてのビデオを見せる。	道徳の時間 個性の伸長 1 - (5)「きらめけばくだけの音色」 ・社会の中に生きる一人として自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。 道徳の時間 場をわきまえた言動 2 - (1) 「マナーは考えなくていいのか」 ・礼儀は相手を人間として尊重する行為であることを理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。		
	2 学 期	道徳の時間 希望・努力 1 - (2)「道ひとすじに 荻野吟子」 ・目標に向けて、希望と勇気を持ち、くじけずに努力しようとする意欲を育てる。 道徳の時間 希望・努力 1 - (2)「また勝てばいい - 羽生喜治」 ・より高い目標に向けて、希望と勇気をもってくじけないで努力していこうとする態度を育てる。	職員 【合同研修会】(夏季休業)・・・児童生徒の情報交換、道徳の時間の手法についての研修、小中連携に関わる計画について検討する。 【授業参観】・・・小学校職員が、中学校1年生の授業を参観する。 中学校職員が小学校6年生の授業を参観する。 【道徳の時間】・・・小学校職員が中学校の道徳の時間の説話として手紙(ビデオレター)を送る。 中学校職員が小学校の道徳の時間の説話として手紙(ビデオレター)を送る。 【出前授業】・・・小学校職員が中学校で道徳の授業を行う。 中学校職員が小学校で道徳の授業を行う。 【小中校長交換講話】(2学期)・・・全校朝会などでそれぞれの校長が講話を行う。 【小中連絡会】(2・3学期)・・・中学校に入学する児童の様子について共通理解を図る。		道徳の時間 着実にやり抜く強い意志 1 - (2)「心の涼風」 ・より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。 道徳の時間 自主・自律 1 - (3) 「私たちの初詣」 ・他人の言動に左右されることなく、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。
友だちと助け合いながら、 夢や目標に向かって努力し続ける強い意志をもった児童		高い志を持ち、夢や目標に向かって 真剣に努力する生徒			

小学校 道徳の時間

交流行事 職員連携

中学校 道徳の時間



小学校

思いやりの心を持ち、友情を深め互いに協力し助け合う児童。

小中共通の取り組み

- ・小中共通の取り組み
- ・教育に関する3つの達成目標
- ・学習規律
- ・道徳に時間の進め方
- ・話し合い活動の進め方

6年生 → 中学校

- ・体育祭見学
- ・合唱祭見学
- ・授業参観
- ・学校説明会
- ・部活体験
- ・新入生説明会
- ・教員との面談

中学生 → 小学校

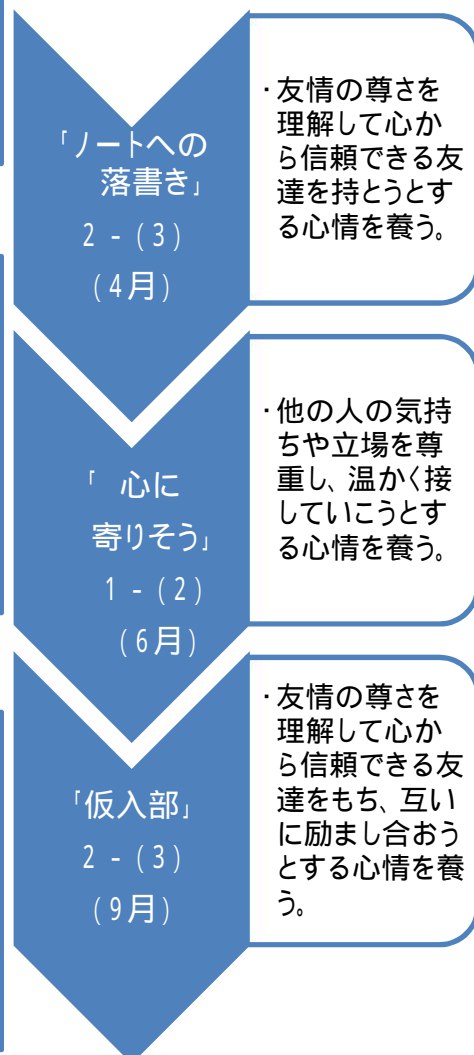
- ・あいさつ運動
- ・合唱祭招待
- ・水泳記録会指導(水泳部)
- ・陸上記録会指導(陸上部)
- ・学校説明会(生徒会)
- ・道徳授業参加

職員間の取り組み

- ・授業参観
- ・研修会参加
- ・道徳のゲストティーチャー
- ・道徳出前授業
- ・英語出前授業
- ・小中連絡会

中学校

思いやりの心を持ち、友情の尊さを理解し、互いに励まし合い、高め合う生徒。



校種 (小・中) 担当学年等 (年・担任外)

あると感じる まあまあ感じる あまり感じない 感じない

イ 「中1ギャップ」は、あってしかるべきもので、乗り越えられる力を身に付けさせるべきである。

十分満足できる まあまあ満足できる あまり満足できない 満足できない

--

はい（具体的内容等） 　　いいえ

※ ここから下は、演習終了後、記入ください。

道徳教育推進教師研修会演習後アンケート

校種（ 小・中 ） 担当学年等（ 年・担任外 ）

【小中連携に関する意識】

1. 小中学校で連携を図る機会や時間は必要だと思いますか。

必要である まあまあ必要である あまり必要ない 必要ない

2. 小中学校で連携を図る機会や時間がありますか。

十分である まあまあである やや不足している 不足している

3. 小中連携充実のためのプラン等を活用したことで相互理解が深まりましたか。

深まった まあまあ深まった あまり深まらない 深まらなかった

4. プラン等の改善に向けて、気づいたことなどありましたお書きください。

--

小中学校間の接続に係る小中学校の教員の意識調査結果

【グラフ版】 ・ 道徳教育推進教師研修会演習事前アンケート結果

・ 道徳教育推進教師研修会演習後アンケート結果

【概要版】 ・ 数値による集計の概要

【詳細版】(校種別・記述による回答を含む)

・ 道徳教育推進教師研修会アンケート集計(小学校教員)

・ 道徳教育推進教師研修会アンケート集計(中学校教員)

【グラフ版】道徳教育推進教師研修会演習事前アンケート結果

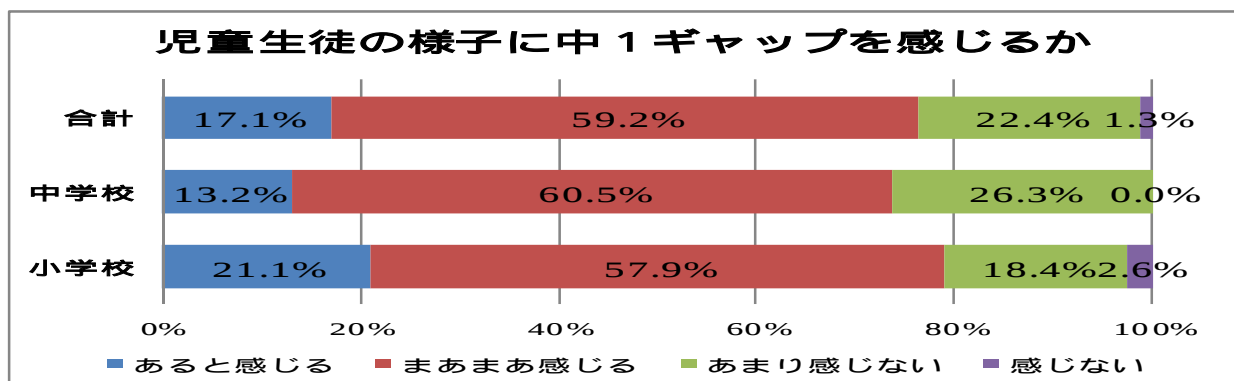
1 中1ギャップに関する意識について

(1)「中1ギャップ」の存在についての意識について

【質問項目】

「中1ギャップ」と言われますが、実際に児童生徒を見て、「中1ギャップ」はありと感ずますか。

【回答選択肢】 ありと感ずる まあまあ感ずる あまり感ずない 感ずない



実際の児童生徒の様子から「中1ギャップ」がありと感ずていると回答した割合は、小学校、中学校共に75%前後(昨年度小学校86%、中学校79.5%)であった。昨年に引き続き、小中学校教員ともに、「中1ギャップ」についてはありと感ずている。

(2)「中1ギャップ」に対する取り組み方への意識について

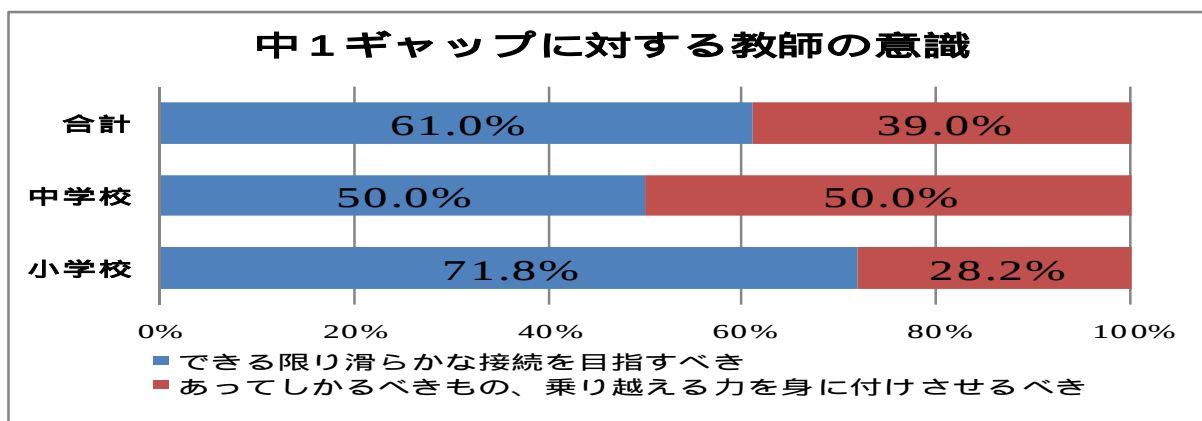
【質問項目】

「中1ギャップ」について、ご自身の意識と近い方を選び、○印をつけてください。

【回答選択肢】

ア 「中1ギャップ」に対して、できる限りなめらかな接続を目指すべきである。

イ 「中1ギャップ」は、あつてしかるべきもので、乗り越えられる力を身に付けさせるべきである。



「中１ギャップ」に対する意識の差は、なめらかな接続を目指す割合が小学校では71.8%(昨年度77.1%)に対して、中学校では50.0%(同31.6%)と少なく、昨年同様、大きな意識の差として表れた。小・中の教員が互いの違いを認めた上で、連携を図る必要性は変わらない。モデルプラン活用による演習プログラムでの研修を通して、小中相互の教育活動や児童生徒の実態等について、共通理解を深めることは大きな意味があるといえる。

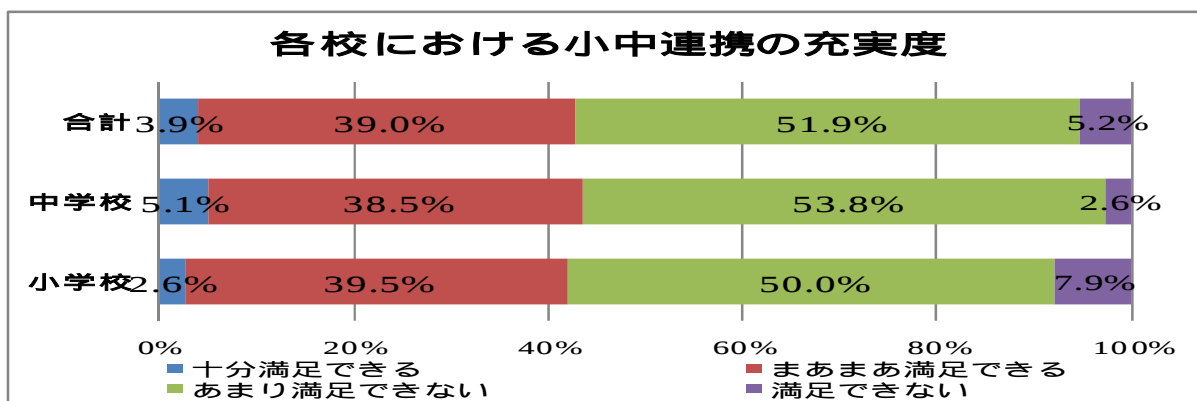
2 小中連携に関する意識

(1) 各校における小中連携充実に関する意識について

【質問項目】各校における小中連携の充実度についてお答えください。

【回答選択肢】

十分満足できる まあまあ満足できる あまり満足できない 満足できない



各校における小中連携の充実度について肯定的な回答は、小学校42.1%(昨年度39.4%)、中学校43.6%(同48.7%)と昨年同様低い割合となった。「中１ギャップ」は存在するが、具体的な連携が十分に図れていない現状は変わらない。

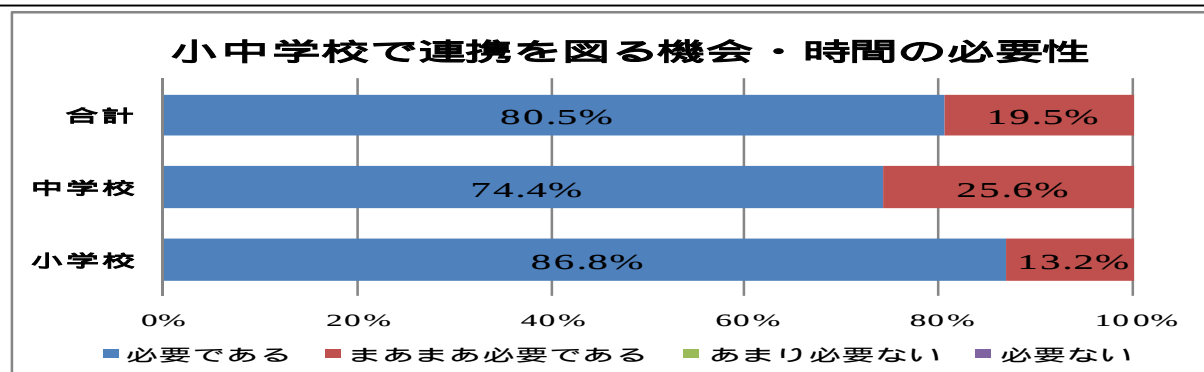
【グラフ版】道徳教育推進教師研修会演習後アンケート結果

1 【小中連携に関する意識】

(1) 小中学校で連携を図る機会・時間の必要性について

【質 問 項 目】小中学校で連携を図る機会や時間は必要だと思いますか。

【回答選択肢】必要である まあまあ必要である あまり必要ない 必要ない



小中学校で連携を図る機会・必要性については、小中共に演習参加者の100%が小中学校での連携は必要であると回答した。

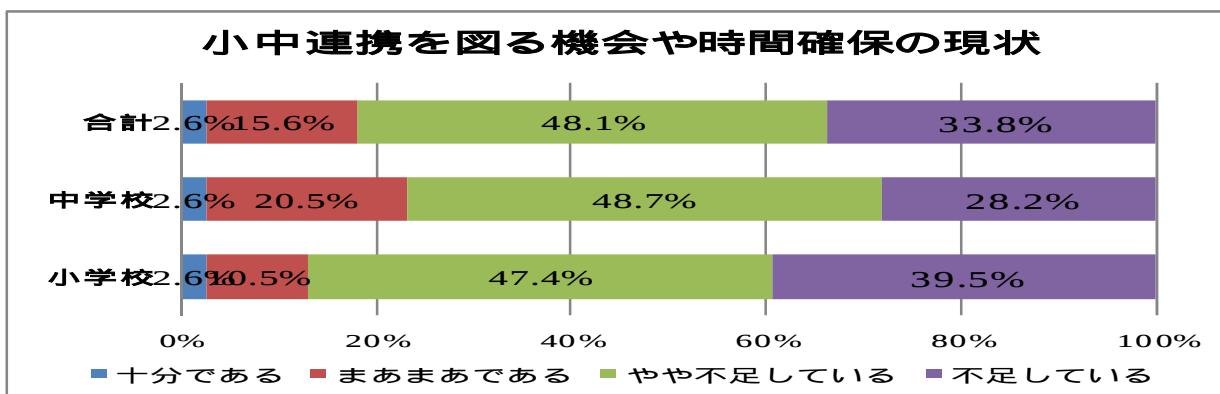
特に小学校教員の方が中学校教員に比べて、より強く必要性を感じていることが分かった。

(2) 小中連携を図る機会や時間確保の現状について

【質 問 項 目】小中学校で連携を図る機会や時間がありますか。

【回答選択肢】

十分である まあまあである やや不足している 不足している



小中学校教員共に、連携する機会や時間が不足していると感じる回答の割合は高かった。

(「不足している」、「やや不足している」回答の割合...小中全体 82%) 小中学校を比較すると
(「不足している」、「やや不足している」回答の割合...小 87%、中 77%) 小学校教員の方が強く感じている。

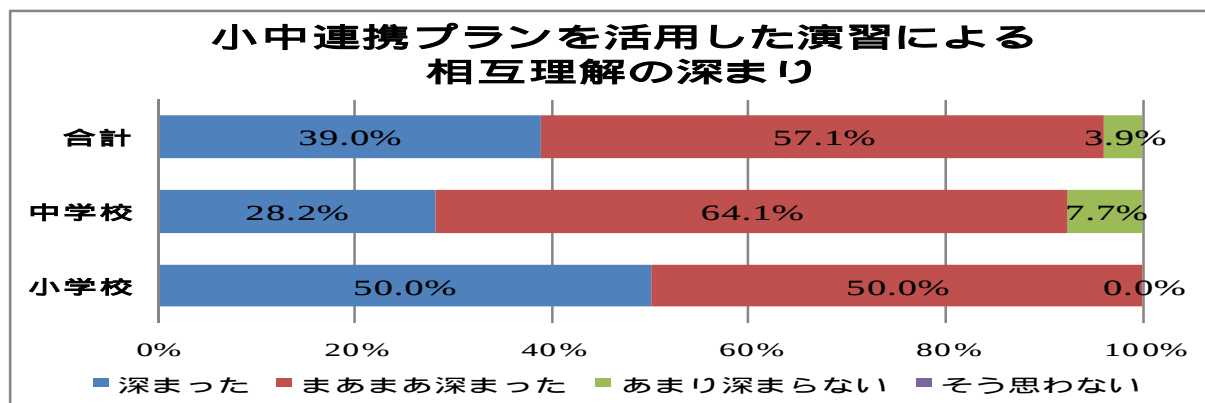
(3) 小中連携プランを活用した演習による相互連携の深まりについて

【質 問 項 目】

小中連携充実のためのプラン等を活用したことで相互理解が深まりましたか。

【回答選択肢】

深まった まあまあ深まった あまり深まらない 深まらなかった



連携に関するプランを活用した演習の有用性については、肯定的な回答が小中全体で 96%（小 100%、中 92%）と高い数値を示した。

小中連携を図る機会や時間の必要性を実感し、かつ機会・時間の確保が難しい現状がある。

このモデルプラン活用による演習は、小中学校相互の教育活動、児童生徒、道徳の時間等について、理解を深める機会、時間になると考えられる。

「学校間の接続に関する調査研究」道徳部会 教師向けアンケート結果

【中1ギャップに対する教師の意識】		総合			小学校			中学校		
		各項目度数	調査人数	百分率	各項目度数	調査人数	百分率	各項目度数	調査人数	百分率
1. 「中1ギャップ」と言われますが、実際に児童生徒を見て、「中1ギャップ」はあると感じますか。	あると感じる	13	76	17.1%	8	38	21.1%	5	38	13.2%
	まあまあ感じる	45		59.2%	22		57.9%	23		60.5%
	あまり感じない	17		22.4%	7		18.4%	10		26.3%
	感じない	1		1.3%	1		2.6%	0		0.0%
3. 「中1ギャップ」について、ご自身の意識と近い方を選び、○印をつけてください。										
ア 「中1ギャップ」に対して、できる限りなめらかな接続を目指すべきである。		47	77	61.0%	28	39	71.8%	19	38	50.0%
イ 「中1ギャップ」は、あってしかるべきもので、乗り越えられる力を身に付けさせるべきである。		30		39.0%	11		28.2%	19		50.0%
					0			0		
4. 各校における小中連携の充実度についてお答えください	十分満足できる	3	77	3.9%	1	38	2.6%	2	39	5.1%
	まあまあ満足できる	30		39.0%	15		39.5%	15		38.5%
	あまり満足できない	40		51.9%	19		50.0%	21		53.8%
	満足できない	4		5.2%	3		7.9%	1		2.6%
6. あなたの学校は小中連携に関する研究等の取組（委嘱等）を進めていますか。										
ア はい。		27	77	35.1%	12	39	30.8%	15	38	39.5%
イ いいえ。		50		64.9%	27		69.2%	23		60.5%
事後アンケート										
【小中連携に関する意識】										
1 小中学校で連携を図る機会や時間は必要だと思いますか。	必要である	62	77	80.5%	33	38	86.8%	29	39	74.4%
	まあまあ必要である	15		19.5%	5		13.2%	10		25.6%
	あまり必要ない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
	必要ない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
2 小中学校で連携を図る機会や時間がありますか。	十分である	2	77	2.6%	1	38	2.6%	1	39	2.6%
	まあまあである	12		15.6%	4		10.5%	8		20.5%
	やや不足している	37		48.1%	18		47.4%	19		48.7%
	不足している	26		33.8%	15		39.5%	11		28.2%
3 小中連携充実のためのプラン等を活用したことで相互理解が深まった	深まった	30	77	39.0%	19	38	50.0%	11	39	28.2%
	まあまあ深まった	44		57.1%	19		50.0%	25		64.1%
	あまり深まらない	3		3.9%	0		0.0%	3		7.7%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%

道徳教育推進教師研修会アンケート集計 小学校 39名

【中1ギャップに関する意識】

1. 「中1ギャップ」と言われますが、実際に児童生徒を見て、「中1ギャップ」はあると感じますか。	2. 「中1ギャップ」の原因は、どのようなことだとお考えですか。	3. 「中1ギャップ」について、ご自身の意識と近い方を選び、○印をつけてください。
あると感じる (8)	・学級担任制から教科担任制への移行に対する不適応。より多くの教師、クラスメイト、部活動の仲間など、一気に人間関係が広がることへの不適応。9か年を見通した教育、小中の連携が未だ不十分であるため。 ・生徒を取り巻く環境のギャップ、特に教師のかかわり方、友人関係。 ・思春期に入り、いろいろ悩む時期だが、その受け皿が限られている。 背景 ・地域や家庭における教育力の低下やつながりの薄さ ・発達障害（特に知的には問題はないが、社会性に問題がある）を明らかではないが、グレーゾーンの範囲で抱えている児童がドロップアウトしてしまう。 ・教職員一人一人が多忙なため、生徒へのきめ細やかな対応に限界がある。 ・小1～小6まで担任がすべての教科（出授業以外）を受け持っていることで、児童も学習面、生活面共に、それに慣れているが、中1になると、教科担任制になるので、すぐに適応できない。 ・教師と生徒の距離 ・学習内容や環境の変化と友人関係の多様化、変化が大きいこと。 ・小学校と中学校の交流の場がほとんど無いこと。授業、行事、学校の雰囲気小学校と中学校ではとても違いがあること。 ・教科担任制になることや、中学生になると、一人一人の生徒の自立を求められるから。	なめらかな 接続（ 4 ） 乗り越えられる力（ 4 ）
まあまあ 感じる (22)	・小学校はどちらかと言うと、教師が細かい部分にまで手を出し、あれこれ指示を出したり、やってあげたりすることが多いが、中学校に行くと本人に任されることが多く、戸惑ってしまうのでは...？ ・授業展開の違い、学習規律、部活動の取り組み ・分からない不安（学校生活、学習、部活、進路、学校の規則）横のつながり（学年）→たてのつながり（部活の先輩） ・新しい仲間との人間関係づくり、教科担任制、授業の進度の違い等、中学校生活への適応 ・環境が大きく変わること（友人を含む人間関係 学習内容など教科にかかわること） ・小学校と中学校の授業スタイルの変化。担任制（ほとんどが）から教科担任制、小学校、中学校それぞれの教員の意識の違い ・担任と過ごす時間が少なくなること ・中学になると、教科担任制が多くとられ、担任との時間が少なくなる。目標が希薄している。明確な目標をもつことでまたちがうと思う。 ・小学校は担任制が、中学校になると、突然専科（教科担任制）になるので、生徒が先生とどのように信頼関係を築いていったらいいのか、慣れるまでわからない。（ギャップが出る）ためではないか。 ・学校によっては（同じ市内）、中学校の教師が小学校に出向いて、話や授業（1時間程度）している所もあるが、我が校では、そのようなこと	なめらかな 接続（ 18 ） 乗り越えられる力（ 4 ）

	がないため、6年担任の知っている範囲のことや歌声交流会、兄弟から聞いたことをもとに、児童は中学校生活を想像しているだけなため、実際に入学してから、学習面、生活面、部活等でのギャップが生じていると思う。 ・ 中学校は教科担任制であり、担任が生活全般を丁寧に見るという形ではないので、戸惑う児童がいる。また、学習内容が難しくなり、ついていけなくなるのも、一因だと思う。 ・ 日頃から小中の教員間で交流することがほとんどないため、中学校でのご指導の様子は分かりませんが、娘の学校を考えると、部活内での人間関係、顧問の先生と合わない、など、部活で悩む生徒が多いようです。通知表の所見欄も小学校で詳しく丁寧にたくさん記載するようにしていたところが、中学校では2、3行で、それも誰にでも共通する内容のもので…。定期テストの順位も明らかに伝えられるので、現実と向き合うことになり、自己について深く考えるようになるのでは…と思います。 ・ 小・中の学校教育の文化の違い ・ 小学校では全教科担任が受け持つが、中学校では教科担任となり、生徒は不安を覚えるのではないか。 ・ 小学校と中学校の考え方の違い。子どもから見ると、扱われ方の違いに戸惑いがあるのでは。 ・ 小学校までは学級担任制でのきめ細やかさがあったが、中学校になると教科担任制で、自主的に動かないといけなことが急に多くなるから…でしょうか。 ・ 新しい環境に対する不安、友だちとのコミュニケーションがうまくとれない。 ・ 小中連携の薄さ、小中の生徒指導の違い ・ 新しい環境への適応力の不足、不器用さ。人間関係の不器用さ。コミュニケーション能力の不足。 ・ 環境の変化に適応できない。 ・ 小学校は担任がほとんどの授業を行い、生活面でも細かく支援し、保護者とも連絡を取り合っているが、中1となると、教科担任制となり、子供が自立していないので、不安になっていくと思う。また、子供自身、自ら考え行動していく力が不足している。学校だけでなく、家庭教育力の低下も大きいと思う。それをどう解決するか考えたい。	
あまり 感じない (7)	・ 慣れない新しい生活（友達関係）への不安から ・ 小・中教員それぞれの指導法や意識の違い、お互いの情報交換不足 ・ 担任が常時教室にいない。（教科担任制に慣れない）部活動（先輩、後輩という関係）など、新しい環境になじめないことにより起こる。 ・ 教師の対応の仕方。 ・ 環境の変化 ・ 人間関係、生活環境の変化 ・ 教科担任となり、小学校よりも中学校の方が先生との距離が遠くなるように感じるのではないか。コミュニケーションがとりにくい。	なめらかな 接続（5） 乗り越えられる力（2）
感じない (1)		なめらかな 接続（0） 乗り越えられる力（1）

無記入（１）	・新しい環境になじめず、不適応を起こす。小学校では、担任が１日のほとんど全てと一緒に過ごすので、子どもの弱い部分を補いながら過ごしているが、中学校では自立していかなければならない部分も多いと思うので、なかなかじめない子が出てくると思う。	なめらかな 接続（１） 乗り越えら れる力（０）
--------	--	-----------------------------------

３．「中１ギャップ」について、ご自身の意識と近い方を選び、○印をつけてください。

ア 「中１ギャップ」に対して、できる限りなめらかな接続を目指すべきである。（２８）

イ 「中１ギャップ」は、あってしかるべきもので、乗り越えられる力を身に付けさせるべきである。（１１）

【小中連携に関する意識】

４．各校における小中連携の充実度についてお答えください。	５．小中連携を進める上で、課題となる（なっている）ものは何だとお考えですか。	３．あなたの学校は、小中連携に関する研究等の取組（委嘱等）を進めていますか。
十分満足できる（１）	・小中合同で研修する時間の確保。教員同士の意識の違い。	はい（１） 小中一貫カリキュラムの編成 児童生徒の交流（合同行事授業） 教職員の交流（合同研修） 高学年での一部教科担任制 中学校加配教員による算数授業
まあまあ満足できる（１５）	・進める上の時間、回数の確保。価値観の違い。 ・時間的な余裕はない。 ・教師の意識 ・小中連絡会がいくつかに分かれているため（中心は生徒指導）、細かい情報が分かってよい面と、そうでない面もあるため、一本化してできると、さらに連携が密になると思います。また、道德に関しては、年１回の研究授業と夏季研修会のためのため、短い時間での話し合いではあるが、大変参考にはなるが、なかなか連携の時間確保が難しいと思われる。 ・小・中学校とも、行事等に追われ、大変多忙となっている。それぞれ日々の運営に精一杯で、何か問題がない限り、対応する余裕がないのが現状であると思う。 ・学力の向上、学習（生活）規律。 ・小・中での教員の考え方の違い。 ・小学校での様子、中学校での様子（行事の進め方、授業の進め方など）がお互いにあまり分からないので、情報を交換し合う時間を確保することが大事だと感じています。 ・小中の授業のあり方の違い。担任の意識の違い。 ・各校種同士の授業参観、またその意見交換の数。 ・共通理解、共通行動の基本となる話し合いの時間の確保。 ・お互いの大変さを理解した上での共通課題の認識。 （中１ギャップを少なくするために、週１回、中学校の先生が小学校に派遣されてきます。６年の授業を担当したり、他学年の授業、行事などに参加したりしています。連携会議、研修会等は行い、今出来ること、やるべきことを各部会で話し合っ、小中連携して取り組んでいます。） ・時間のなさ。	はい（６） いいえ（９） 部活動体験 中学教師による小学校での授業 小中合同研修会 小６の３学期に中学校の教諭に ２～３教科と道德の出前授業を やってもらっている 小中間での授業参観 小中間での交換授業 小中間での研修 中学校一日入学 中学生による職場体験 授業参観 運動会ＰＴＡ種目中学生の参加 算数における指導計画の見直し 規律の共通化 （姿勢、あいさつ、約束等） 外国語活動

	・小・中の教師の連携をとる場（時間）がない。	
あまり満足できない（１９）	・特に中学校の先生が忙しすぎて、話し合ったり、打ち合わせをしたりする時間がとれない。今まで連携が図られていなかったのも、お互いの学校の様子が分からない。 ・小学校・中学校の共通の時間の確保ができていない。連携を進める機会を持とうとしない。 ・小・中学校の交流があまりない。 ・小中９年間を見通した指導法を考えると、小中教員が情報交換をする機会をつくること（小６担任だけでなく全職員が） ・６年担任のみが情報交換をするため、それ以外の教員に伝わってこないこと。 ・行事等でスケジュールを合わせることが難しい。（多忙である） ・小・中での足並みを揃えた指導を行うための共通理解の場や時間が確保できないこと。 ・小中それぞれが抱える課題の共有。小中の教員が情報交換をする機会の不足。小６後期から中１前期において、スムーズな接続を促す取組（小１・年長における接続期プログラムのように）。小中の教職員の９か年をかけて児童生徒を育てていくという意識と、実際の取組の不足。 ・小中連携に対する温度差、必要性の認識の差。 ・時間と必要性。中心となるべき先生が存在（管理職）。 ・小中の教員間で、現状を伝え合う機会が少ないことだと思います。 ・児童生徒理解や指導方針についての共通理解。 ・小中それぞれの時間が合うように日程を考えて計画を立てること。 ・時間を合わせること。 ・教師間連携と教育課程。 ・小・中間の教職員の理解の不一致、生徒指導面での決まりなど。 ・みんな小中連携を進めることは大切だと思っているが、まず誰がどのように進めていったらよいか決めていないこと、また、忙しい日常の中、授業や他の行事をこなしていくのが精一杯なので、何かきっかけがないと、取組が始められないと思う。 ・小中の日程調整の難しさから、小中間の教師がなかなか交流できないこと。 ・小・中学校教師の意識の差。保護者の児童への接し方→自立への支援、最近の子は学年より２つくらい精神年齢が低く感じる。	はい（３） いいえ（１６） 中学校教諭の本校の授業参観 ２月と６月実施の小中連絡会 校長交換講話 小中合同学習公開 中学生による読み語り 小中合同教員研修 中学校の先生が月に２～３回、小学校に来校している。 (市内での取組)
満足できない（３）	・小・中お互いの様子を伝える場が少ない。 ・中学生や中学校について児童が知ったり、関わったりする機会が少ない。 ・小中ともに職場が大変多忙なため、効果的な連携事業が考案されているといいがたい状況が続いている。課題がある児童が中学校で実際にどのように生活しているのか、意外と一般職員は正確に知ることができないので、夏休みを中心に共通の児童（生徒）について、事例研修を行い、「中１ギャップ」について、事例の中から学んではどうかと考える。 ・多忙さ。	はい（１） いいえ（２） ３連に向けて
無記入（１）	・教師間の交流、授業参観の機会が少ない。生徒指導の共通理解。相	はい（１） 学校間連携教育（幼

	互理解と歩み寄りが必要	・小・中)
--	-------------	-------

3. あなたの学校は、小中連携に関係する研究等の取組（委嘱等）を進めていますか。

はい（ 12 ） いいえ（ 27 ）

【小中連携に関する意識】 演習会后アンケート

1. 小中学校で連携を図る機会や時間は実用だと思いますか。（無記入1）

必要である （ 33 ）

まあまあ必要である （ 5 ）

あまり必要ない （ 0 ）

必要ない （ 0 ）

2. 小中学校で連携を図る機会や時間がありますか。（無記入1）

十分である （ 1 ）

まあまあである （ 4 ）

やや不足している （ 18 ）

不足している （ 15 ）

3. 小中連携充実のためのプラン等を活用したことで相互理解が深まりましたか。（無記入1）

深まった （ 19 ）

まあまあ深まった （ 19 ）

あまり深まらない （ 0 ）

深まらなかった （ 0 ）

4. プラン等の改善に向けて、気付いたことなどありましたらお書きください。

- ・各学校の良さを取り入れていきたいと思いました。
- ・話し合い活動をしっかり行っておくこと。
- ・自分のいる小中学校区では、まだ足りないことがあったので、発信していければ良いと感じた。
- ・できそうなものから1つか2つ、無理のない程度に取り入れていけたら相互理解が深まると思う。
- ・自分の学区は、小中連携が充実して図れていると感じました。さらに深めていけるといいと思います。
- ・小学校の先生も中学校の先生も考えていることは同じなのだと感じました。児童生徒の生活時間が少し違うので、そこを改善工夫することが課題だと思いました。
- ・様々な意見を交換することで、自校の課題、違う視点からの取組を考えることができた。
- ・いろいろ工夫して取り組めば、いろいろな活動が広がる可能性を感じました。
- ・本校の町は、何もしていないに等しい。
- ・課題研修等、全教職員の意識が向いていると推進しやすいことが分かるが、それを何とか働きかけながら進める大切さも気付いた。
- ・なかなか中学校の活動に触れることがないので、中学校の先生の話聞いて、話し合う機会がとても貴重でした。学校や地域によっても違うし、できるできないもありますが、本校でも取り組めるものがいくつかあると感じました。
- ・小学校、中学校の様子を教師が理解し合うことが大切だと思いました。
- ・他校の情報を知ることができた。本校でも実践できそうな取組を得た。
- ・時間を自分から積極的に作り、交流できる機会を設けていくことが大切だと思いました。
- ・時間がなくて無理かと思っていたが、体育祭参加、水泳指導等、何度も交流の機会を持って連携している学校もあるので、参考にしていきたい。
- ・やろうと思ったらできることが多いと思いました。ぜひ実行したいです。
- ・お互いの相互理解の必要性を痛感しました。

- ・小中で連携していくには、多くの課題があることが分かりました。始業の時間が異なっていたり、行事のかかわりがあったりと、なかなか時間を合わせるのが難しいのだと、意見交換をしたことで気付いたので、有意義でした。
- ・やはり中学校の先生達と情報交換する場や時間が大前提として必要であると感じました。
- ・中学校の先生方との意見交換ができ、大変役に立ちました。現実問題として、実現にはかなり難しい部分もあるので、できる範囲で進めていけたらと思いました。
- ・お互いの行事や日常の様子を知ることが大事だと感じた。このように小中が話せる機会がなかったので、本日いただいた時間は大変貴重だと感じました。
- ・どの時数でカウントするかなど、まだまだ連携を図るには難しいことが分かった。
- ・プランの例が示されていたので分かりやすかったです。これから実行していくのが大変だと思いますが…。
- ・とりあえず、小中で意見を交流する中で、実際できるできないに関わらず、「こういうのもあるんだ」と気付くことが多かった。小中学校の職員が今日のように話し合える機会があれば（もてば）小中連携が進んでいくと思う。
- ・まず1つでも今年のうちに始められたらと思いました。毎年毎年少しずつできることを増やしていきたいです。
- ・情報交換はとても大切だと感じました。連携できるところはたくさんあるんだなと気付きました。
- ・小・中それぞれの思い、考えがよくわかり合えました。自分では考えつかないプランもあり、とても参考になりました。
- ・他校の実践や先生方の考えを伺い、本校でもできそうなことがありました。ぜひ実践できるよう努力をしてみます。（中学校生徒会説明会のやり方 etc）

道徳教育推進教師研修会アンケート集計 中学校 39名

【中1ギャップに関する意識】

1. 「中1ギャップ」と言われますが、実際に児童生徒を見て、「中1ギャップ」はあると感じますか。	2. 「中1ギャップ」の原因は、どのようなことだとお考えですか。	3. 「中1ギャップ」について、ご自身の意識と近い方を選び、○印をつけてください。
あると感じる (5)	・新しい環境への不適応。学習のつまずき（低学力が露呈） ・小学校での指導の甘さ（目上の人への態度、清掃への取組、言葉遣い、時間を守る意識など） ・本校では、児童から生徒への心のリセットの様なものと考えている。必ずしもマイナスばかりではない。 ・小の先生と中の先生との意識の違い。様々な小学校から集まってくる集団（今までとは違う）に対応できない生徒。 ・全体ではないが、生活規律の面、学力面からも「中1ギャップ」を感じる。理由の一つとしては、小中間で指導の徹底や求める水準に差があるように感じる。	なめらかな 接続（1） 乗り越えられる力（4）
まあまあ 感じる (21)	・小学校では最上級生という意識、立場であった児童が中学に入学し、下級生という立場になる心理的な変化。今まで熟知していた小学校から様々な点で異なる中学校で生活するという環境の変化。 ・立場の変化と急激な環境の変化 ・部活内における先輩後輩の上下関係、新しい人間関係の構築。 ・上級生との関わり、言葉、授業の難易度。 ・教科担任制（様々な教員から様々な角度から評価されることに慣れていない）校則がほぼない状態から中学に入り、校則に従うよう指導が入ること。 ・教員に男性が多くなり、小学校より厳しい指導が増えること。また、他校生徒との交流により、様々な価値観に触れることで、小学校で身に付いてきた価値観が揺さぶられること。 ・環境の変化、不安（人間関係や学習、行事、部活、進路など）、期待（まわりからの・・・） ・小中連携と小・小、中・中の連携のうすさ。 ・小中学校の連携不足、情報の共有不足。 ・授業のスタイルが変わること、発達段階、人間関係や環境の変化。 ・小学校と中学校の指導のあり方の違いや、教師や先輩の関係性についての違いがあるように思います。 ・小中間での連携の少なさ。 ・小学校から中学校への変化についていけない部分がある。（人間関係、学習面） ・生活環境の変化（部活動のスタート、教科担任制への変更、新しい人間関係の確立など） ・お互い（小は中の、中は小の）の現状や課題について理解していない。 ・人間関係を再構築しないと行けない、学習進度の違い、規律、ルールの違い。 ・教科担当での授業への移行、自ら判断し活動する場面が多くなること。 ・先輩・後輩、友達関係など、人間関係がうまくつukれない。	なめらかな 接続（12） 乗り越えられる力（9） 考えはイですが、アを目指すことにより中1ギャップを乗り越える力がつくのではないのではと感じます。（1）

	・現勤務校に関していうと、人間関係の広がりに対する不適応があると思う。（小学校が小規模校のため） ・ルールが厳しくなる。違う小学校の人との人間関係。担任授業と教科担当で先生が変わる。勉強が難しくなる。	
あまり 感じない (12)	・新しい環境に慣れる力がないこと。 ・小・中の教員の意識の差 ・小学校上級生としての自覚を学んだ上で中学校に入学した際の1年生に対する働きかけが－（マイナス）になっているように思われる。 ・小学校と中学校のシステムの違い、教師によって授業のシステム、流れが違う。 ・環境の変化に対応できない。 ・新しい環境への対応の仕方、準備 ・先輩、後輩という初めての関係や校則の違いなど、今まで許されていたものが許されなくなる、などのギャップ。 ・急に忙しくなる。勉強が難しくなる。体力がない。（荷物が重かったり・・・）小中の連携がうまくいっていない。 ・生活リズムの変化、生活のルールをより意識することになること。（言葉遣いなど） ・複数の小学校から新生が入学することで、新しい環境、新しい人間関係になること。校則など、新しいルールがあること。 ・生活環境の変化（部活動・学習） ・授業規律の徹底の違い。家庭でのしつけや発達段階に応じた指導や声かけ。授業の進度、教師の姿勢や言葉遣い。小6での指導不足（先を見据えた内容）	なめらかな 接続（6） 乗り越えら れる力（5） 無記入（1）
感じない（0）		
無記入（1）	・他の小学校の生徒と同じ環境で学ぶため、仮定的な要因（中学入学を待って両親が離婚するケースがある）	乗り越えら れる力（1）

3. 「中1ギャップ」について、ご自身の意識と近い方を選び、○印をつけてください。（無記入1）

ア 「中1ギャップ」に対して、できる限りなめらかな接続を目指すべきである。（19）

イ 「中1ギャップ」は、あってしかるべきもので、乗り越えられる力を身に付けさせるべきである。（19）

【小中連携に関する意識】

4. 各校における小中連携の充実度についてお答えください。	5. 小中連携を進める上で、課題となる（なっている）ものは何だとお考えですか。	3. あなたの学校は、小中連携に関する研究等の取組（委嘱等）を進めていますか。
十分満足できる (2)	・小中の教師の合同会議の時間がとれない。 ・中学校1校に対して複数の小学校と連携しなくてはならないこと。連絡協議会一つをとってみても、日程調整が難しい。	はい（1） いいえ（1） 北本市小中一貫教育推進モデル校「かば校学園小中学校」として研修している。
まあまあ満足できる（15）	・小・中とも職員の負担増による余裕のなさ。 ・小中の連携に関わる各小学校間の連携（本校は4つの小学校から上がってくるため） ・小学校側と中学校側、双方とも時間の確保が難しい状況にあり、日	はい（7） いいえ（8） 研修テーマに取り入れている。 市の研究開発の委嘱を受けてい

	程調整や場所、人員の確保が不十分なままで計画が進められないこと。道徳教育に限らず、今年度「小中連携」が多方面で叫ばれているが、授業時数増加に伴い、新しいものをつくり出すのではなく、今行っているものについて視点を変えて見直していく必要性を感じる。何でもかんでも取り入れようとして、一番大切な「生徒と関わる時間」がなくなってしまうのは、研究として矛盾を感じる。忙しい学校は荒れ、衰退している。この事実をそろそろ受け止めてほしいと日々の業務の中、感じます。 ・連絡会や授業見学などで、しっかり申し送りもされている。小学校でしっかり育てていただいた良い部分を伸ばすためにも、小学校でされていた指導内容を知っておくことは大切だと考えています。 ・小学校教員と中学校教員の教育観の違い。 ・連携をはかるために話し合いをする時間の確保。 ・学力差（各小の）をできるだけなくす。小学校に向けたオープンスクールの積極的実施。 ・小学校・中学校間の連絡不足。 ・打ち合わせにかかる時間。中学校は部活があるため、放課後打ち合わせに行こうとすると出張外となり、また授業中となると、人手の少ない小学校は補充が大変だった。お互いの教員が各学校についてもっと理解する必要がある。 ・小学校と中学校の教員がもっと話し合ったり、共同作業をするなどの時間がなかなかとれない。 ・授業交流や意見交換の場を設けているが、参加できる教員に限られているので、いかに各教科、活動ごとに交流の場を設けることができるかが課題と考える。 ・小１～小６までが連携できていないので、小６と中１はいいが、不登校や発達障害、人権、特活等、６年間何を学んできたかわからない。 ・小中合同の研修（互いの参観を含む）をいかに充実させるか。→時間的余裕がない。中学校区に複数の小学校がある場合、小小連携も進める必要がある。 ・話し合いをする時間の確保。小中の、また小小の教師の取組への温度差。	る。 小中連携協議会を行う。 （学習規律、生活規律で共通に行っていくことを決める、お互いに参加できる行事を選び行う、交流行事、出前授業を計画し行う） 道徳推進モデル校として積極的な生徒指導 （学力向上の一環として行っている。） 昨年までは、算数（数学）、国語、生活生徒指導、道徳に分かれてやってきた。今年は防災、小中一貫教育（合同生活日、行事への参加、教員の授業への参加、合同研修）
あまり満足できない（２１）	・時間の制約（本校は合同で研修を行う機会が夏季休業中のみ） ・互いの情報交換等ができない…時間の確保が難しい。個人としてよりも学校として意向等が必要である。 ・双方の相手への不理解。小と中の体制、体質の違い。 ・どの小学校と連携するのか。（本校は３校から進学してくる。） ・相互理解の不足。年に１回程度の小中連携事業では相互理解は難しい。研修の不足。児童生徒の成長過程における指導の違いなど理解し合えず、不信感につながる傾向があると思う。 ・根本的に交流が少ない。 ・教職員同士の交流、ゆとりのない教育計画（平時の交流、連携ができる時間がない。） ・小学校は学級全体、中学校は学年全体から、横の共通理解、共通意識に弱冠の誤差が生じている。	はい（７） いいえ（１３） 無記入（１） 宗岡地区小中連絡協議会 （授業参観、生徒指導面での情報交換） あいさつ運動 生徒指導上の小中共通の取組 夏に小中で情報交換会等 （職員室への入室の仕方、廊下歩行は右側等、２つの小と中で共通の取組） 授業公開や研修など

	・中は小を、小は中の実情、現状を知らなすぎることに、意識の違いだと思います。中が小に合わせる、近づけるのもどうかと思います。私個人的には、小中ギャップよりも中高ギャップの方が大きいと感じているので・・・。 ・具体的な計画が立てられていない。 ・お互いの現場や目の前のやることに追われ、卒業後、入学前のことに気を配る余裕がない。 ・組織作り、情報提供や交流の場の設定。 ・小中の教員間の共通理解を図る機会や時間の不足。 ・情報交換する場が少ない。 ・時間的にも空間的にも余裕がないと思います。小6の元担任と中1担任の交流が年1回（6月）、夏休み中の合同研修が年1回（8月）ある程度です。 ・多忙のため、時間が取れない。機会があっても、話し合いの焦点が定まらず、単なる情報交換に終わってしまうケースが多く、問題点の改善策を打つなどの手立てがとられていない。 ・児童生徒の実態をしっかりと情報交換できていない。名前の挙がっていない児童生徒の方が悩みを抱えているケースも多い。 ・提出物、号令など、細かいルールの統一、理解。 ・合同研修会などの、お互いの情報交換や話し合いの機会が少ないこと。 ・授業とのかねあい。 ・何をどのように進めていくかの具体的な方策。	小学校での中学校教員による授業や生徒指導等の情報交換 防災教育（富士見市の委嘱を受けている） 夏休みの小中合同研修 小中の相互の授業参観及び情報交換
満足できない （1）	・連携の先頭となる人同士の話し合いの機会がない。（少ない）教職員の小中連携の意識。	いいえ（1）

3. あなたの学校は、小中連携に関係する研究等の取組（委嘱等）を進めていますか。（無記入1）
 はい（15） いいえ（23）

【小中連携に関する意識】 演習会後アンケート

1. 小中学校で連携を図る機会や時間は実用だと思いますか。
- 必要である （29）
 まあまあ必要である （10）
 あまり必要ない （0）
 必要ない （0）
2. 小中学校で連携を図る機会や時間がありますか。
- 十分である （1）
 まあまあである （8） これ以上増やすのは無理（1）
 やや不足している （19）
 不足している （11）
3. 小中連携充実のためのプラン等を活用したことで相互理解が深まりましたか。
- 深まった （11）
 まあまあ深まった （25）
 あまり深まらない （3）
 深まらなかった （0）

4. プラン等の改善に向けて、気付いたことなどありましたらお書きください。

- ・今行っていることを道徳的視点で見直してみる。
- ・もっと話し合う必要がある。小の道徳の授業を見たり聞いたりするべきだ。若手が発信するのは難しく、校長などの協力が必要である。地域に根ざしていないと小中連携、家庭連携も難しい。
- ・小中のさまざまな取組を知ることができて、とても勉強になりました。
- ・実際に学校の中でできていないことも多かったので、持ち帰って活用していければと思います。計画を守って進めていくことの大切さもよく分かりました。
- ・小学校の中でのたての連携、中学校の中でのたての連携が、小中の連携につながると思う。
- ・小中連携は必要だと互いに認識しているため、時間の確保が必要だと改めて感じた。
- ・連携の必要性はとても感じましたが、時間がなかなかとれないので、現実かな・・・と思いました。
- ・すぐに取り入れられそうなものもあったので、参考になりました。すぐ隣に小学校があるので、もっと積極的に取り組めるのではないかと刺激になった。
- ・今日の研修を役立てたいです。
- ・時間に限りがある中で、効率よく進める方法を模索したい。
- ・話し合いの中でいろいろな状況が見えて、大変参考になりました。
- ・研修などでお互いの理解を深めることはできるが、その理解をどのように実践（現場）に生かすのがよく分からなかった。
- ・時間の確保と実施するときにお互いに無理がないようにすること、連携をするとどんないいことがあるのか、情報収集したり、お互いに話し合ったりすること。
- ・小中お互いの教員が歩み寄り、地域の子供を育てていくという意識をもつことが大切だと思った。しかし、時間には限りがあるので、無理のない範囲で改善に向けて行動したい。
- ・授業でのお互いの取組について知っていく必要がある。
- ・道徳教育とかかわる視点だと、基本的生活習慣・・・が共通としてやりやすいですが、どうしても特活的視点になってしまい（行事等）、難しいなと感じました。
- ・研修をしていただいても、ゆとりのない状況はかわりないので、継続的な連携は難しい。
- ・学校の立地など、条件によるところが多い。
- ・新たなプランは時になく、その学校の現状に応じて、できる連携も限られていると思う。それぞれの学校での現在の取組を大切にしながら、内容を検討していく必要があると思う。
- ・時間の確保がまず必要である。どのような連携が有効なのかを精査し取り組むべきだと思った。
- ・これを誰と誰が行うのがよいのかというのは、今回道徳という視点で行ってるが、教務主任が行うべき内容のような気がする。（だから、推進教師は教務主任という考えなのだろうが、道徳の時間をもたない人が推進教師にはなりにくい。）
- ・必要性や不足感を持ちました。しかし、個人では限界があり、学校体制のあり方について考えさせられました。

小中学校の滑らかな連携のための道徳学習プラン作成シート

モデルプランの内容を参考に、グループ毎に〇〇中学校区の道徳学習プランを作成してみよう！

1 学校区名の決定

グループ毎に小学校名、中学校名、中学校区名を設定する。

(〇〇小・中学校の推進教師として、小中連携のプラン作成を進める。)

()市・町 ()中学校区

2 目指す児童・生徒像を設定する。

小 ()

中 ()

3 重点的に取り組む内容項目を設定する。

(2と3の設定については、設定順序が変わっても可。)

・小 - ()「 」

・中 - ()「 」

4 小中学校で関連する交流行事等を挙げていく。(付箋に書いていく。)

- ・ 共通の取組
- ・ 小学校 6 年から中学校へ
- ・ 中学校から小学校へ
- ・ 職員間の交流 等

それぞれの取組について、説明し合い、共通理解を深める時間とする。

各校で実際に行っていない活動でも、かまわない。

(目指す児童・生徒像実現のため、やってみたい取組等をできるだけたくさん出し合うことにより、小学校が望んでいること、中学校が望んでいること等について、理解を深める。)

→ただし、一方的に要求するばかりの取組では、継続性の面で問題がある。相手意識を大切に。

5 要とする道徳の時間を計画内に設定する。

- ・ 2,3等を踏まえて、どの資料を計画内に位置づけるかを検討する。
- ・ 選んだ資料については読み合い、内容を確認する。

(「彩の国の道徳」高学年版、中学校版の中で、適切な資料を読み合うことにより、道徳の時間の内容について共通理解を図る。)

6 他の教育活動等の設定

- ・目指す児童・生徒像に係る他の教育活動（教科等、行事など体験活動）を計画内に設定する。
- ・始めは、各教科等の単元名などや行事名を挙げる。検討していく中で、それぞれのねらい等を追記していく。

7 計画全体のバランスについて検討する。

- ・教科相互のバランス、実施時期のバランスなどを検討する。
- ・小学校、中学校それぞれの立場から、意見を出し合う。

8 各計画について、発表し合う。

- ・各グループの代表者が、計画について発表する。（課題）

【メモ】

「道ひとすじに - 日本最初の公認女性医師 荻野吟子 - 」

自分の目標に向かって 1 - (2) 希望・努力

【資料について】

本資料は、女性が医師になるという、当時だれも成し得なかったことを不撓不屈の精神で乗り越えて実現した、埼玉県の人、荻野吟子を資料としている。吟子は、日本最初の女性医師になるため、次々と立ち上がる困難に負けず自分の意志を貫き通す。たゆまぬ努力を続けたからこそ夢を実現することができた吟子の半生を振り返りながら、困難を乗り越えた時の達成感を共感的にとらえさせるだけでなく、本来の目的に向けて、より高い目標を掲げて引き続き努力していこうと情熱を燃やしている気持ちにも気づかせたい。また、一つのことに向かって夢や希望をもつことや努力し続けることの大切さを児童一人一人の心に感じさせたい。

【小中連携にかかわる視点】

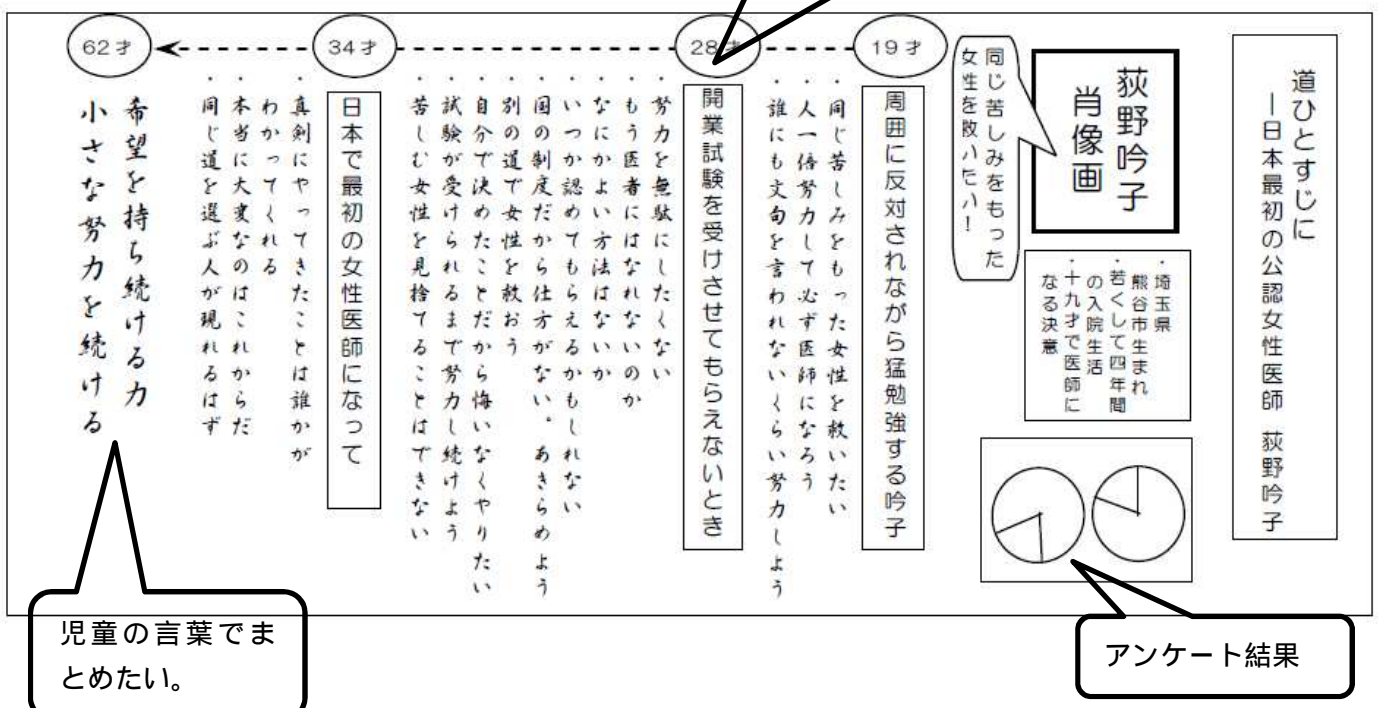
小中学校接続期には、大きな環境の変化や思うようにいかない現実にあふれることがある。しかし、勇気と希望をもって努力し続けることができれば、それらの壁を快活に乗り越えることができ、自分の成長の糧にすることができる。計画的に努力目標を立てたり、理想に向かってくじけずに着実に前進していったりする強い意志と実行力を育て、思い通りにならない局面を乗り越えることができるしなやかな心を養いたい。

ね ら い

○希望を持ち続け、くじけずに努力して自らの課題に立ち向かおうとする意欲を育てる。

板 書 計 画

年齢を明示→吟子の長い努力



授業の流れ

- 「夢や目標についてのアンケート」結果について話し合い、価値の方向付けを行う。



- 荻野吟子の人物像や条件・状況を知り、「道ひとすじに」を聞く。

- 主人公「荻野吟子」の気持ちを中心に話し合う。
(1) 周囲に反対されながらも、どのような思いで医師になるための勉強に励んだのか。

→困難に出会っても、努力し続けられたのはどんな気持ちからか？

- (2) 開業試験を受けさせてもらえなかったとき、どのような気持ちであったか。

悲しい。がっかり。

→悲しいだけか？他に考えたことは？

もうやめたい。

→やめてしまってもいいのか？

受けさせてもらえるまで頑張る。

→ずっと受けさせてもらえないのに？

- (3) 日本最初の公認女性医師になった吟子は、どのような思いであったか。

- 本時の学習から自己の生き方を見つめる。
(ワークシートに記入)

登場人物（主人公）：荻野吟子（肖像画を掲示）

条件・状況

江戸時代末期（嘉永4）に、現在の埼玉県熊谷市に生まれた。若くして病に苦しみ4年間の入院生活を送ったが、その時代に女性医師はおらず、嫌な思いをした。19才の吟子は、同じような経験をしている女性を救いたいと医師になる決意をする。

- (1) 周囲に反対されながらも信念を貫く吟子の強い意志を感じ取らせる。

強い信念と希望をもち、目標に向けて努力する生き方にふれる。

- (2) 努力しても叶わない現状に苦悩している吟子の心の葛藤について深く考えさせる。

困難に直面して葛藤する主人公の生き方にふれながら、課題を乗り越えようとする意欲をもたせる。

主人公の葛藤についての話し合いを通して互いの価値観を受容させ、信頼し合える人間関係を形成する。

本来の目的を見失わずに、目標をステップアップさせていく生き方のよさに気付く。

自己の生き方と結びつけて振り返らせることで、道徳的实践意欲を高める。



- 教師の説話を聞く。（苦勞して、たくさん努力した体験談）

偉業を成し遂げた人物も自分達も、努力している段階では同じ可能性をもった一人の人間であることを知らせる。

その他の終末の例として、中学生からのビデオメッセージ、中学校校長による説話、インタビューによる説話の紹介等が考えられる。

【調査研究（道徳）検証授業に関する考察等】（小学校）

実施学級： 第 6 学年 3 学級

実施日：平成 2 5 年 1 0 月

1 各学級（学年）の実態等

- ・全体の傾向として中学校に対する不安をもっている児童が多い。特に上に兄弟がおらず、中学校の詳しい情報を知らないようである。アンケートの結果からも、中学校生活を「あまり知らない」と回答した児童が 6 割を超える。「よく知っている」と回答した児童は 1 割未満であった。また、中学校に入学するのに「不安」と回答した児童も 6 割を超える。
- ・各クラスとも 1 ～ 2 割程度、自尊感情が低い児童が目立つ。自分に自信をもって様々なことに挑戦しようとする児童との 2 極化が進んでしまっている。また生活環境や学力の 2 極化も気になる。中学校に入学したらやりたいことがないと回答した児童は 3 割程度いた。何事にも冷めているような印象の児童が少なくない。
- ・道徳の時間に限らず、授業中に発言する児童に偏りも感じられ、学力差も開き始めている。

2 授業の実際

（ 1 ）事前指導等

- ・運動会や音楽会などの行事への取組を振り返る。
- ・昨年度行われた「夢先（日本サッカー協会）プロジェクト」を振り返る。

（ 2 ）導入

- ・夢や努力していることのアンケートの結果を知る。
例：夢や目標がある ある（ 1 8 名）なんとなくある（ 6 名）ない（ 3 名）
夢や目標に向かって努力している している（ 1 9 名）していない（ 8 名）

（ 3 ）展開

- 周囲に反対されながらも、吟子はどのような思いで医師になるための勉強に励んだのか。
- ・同じ病気で苦しむ女性を救いたい
- ・自分で決めたことだから、最後までやりたい
- ・自分がやり通せば道が開けるかもしれない
- 医学校を卒業してからも、女性であることを理由に開業試験を受けさせてもらえなかった吟子は、どのような気持ちであったか。
- ・なぜ、わかってくれない。ダメかもしれない。あきらめそう
- ・あきらめないで、やり通す
- ・もっともっと勉強すればまわりがわかってくれるかもしれない
- 開業試験に合格し、日本初の公認女性医師になった吟子はどのような思いであったか。
- ・あきらめないでやってきてよかった
- ・やってきたこと（努力）が実った
- ・これからが大切、女性医師を増やしていこう

- 本時の学習から自己の生き方を見つめる。
- ・いつもいやなことがあるとすぐにあきらめちゃうけど、今日勉強してもう少しがんばってみようと思った
- ・いつもけっこうがんばっていると思っていたけど、がんばりがちがうなと思った。これからも夢（自分の）にむかってがんばっていこうと思った
- ・ずっと先のことも大切だけど、今自分ができることをしっかりとやっていくことが大切だと思った



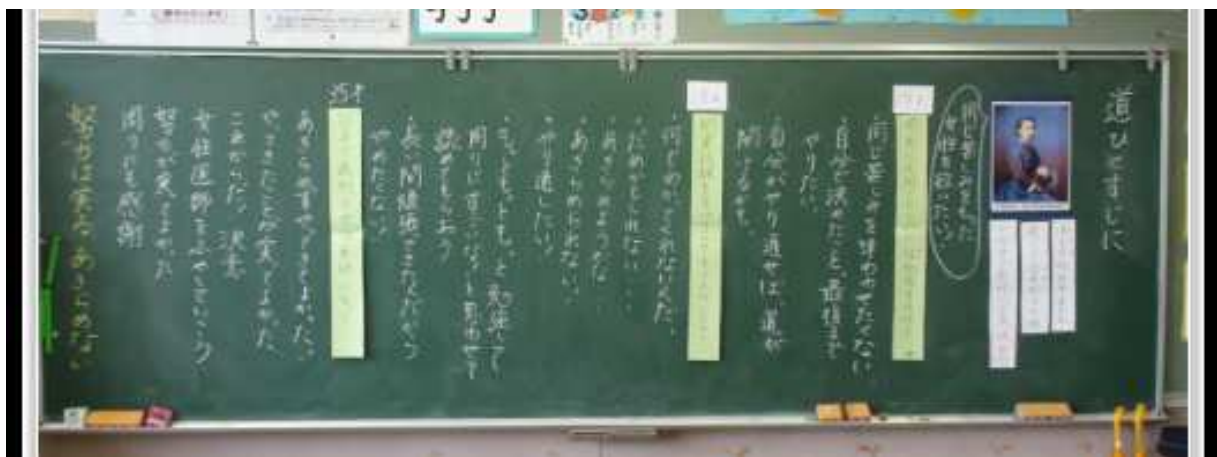
(4) 終末

- ・教師の説話

(5) 事後指導等

- ・歌を紹介し、クラス全員で歌う。

(6) 板書



3 児童生徒の反応

- ・「いつもは途中で諦めてしまうけど、今日勉強してみて、諦めないでがんばろうと思った」など、ねらいとする価値にせまれた児童も多かった。
- ・「夢は諦めなければ叶う」「夢に向かってがんばることが大切」など前向きな意見が多く出た。
- ・「みんなに反対されたら諦めちゃうかもしれない」という友だちの意見に共感したり、自分の考えと比較したりするなど話合いへ意欲的に参加した児童が多くいた。
- ・女性医師になれたところで満足してしまわずに、医者になるという夢を達成したところを再スタートとして次の夢にむかっていこうとする吟子の気持ちをとらえることができた児童もいた。
- ・アンケートで努力をしていないと回答した児童もこれから先、目の前にあることをがんばっていこうとワークシートに書くことができた。

4 授業の効果等

- ・夢や努力していることのアンケートによる導入により、児童たちは夢をもっていることや夢に向かって努力していることへの意識付けを図ることができた。しかし、「目の前の課題を乗り越える、小さな努力を重ねていくこと」がギャップをうめることを意識させるこ

とは難しかった。

- ・共感・葛藤・覚醒とシンプルでとてもわかりやすい展開だったため教師側としては授業を流しやすかった。そのため、教師にゆとりが生まれ、児童たちも発言しやすかったようである。その反面、後半部分で飽きてしまった児童もいた。
- ・荻野吟子と自分を重ね、入り込んで考えていた児童がいた半面、集中力が切れてしまった児童も少なくなかった。努力を重ね、夢を達成する素晴らしさを感じ、できることなら自分もと前向きな気持ちになれた児童が多かった。
- ・教師の体験談を伝えたことで、児童は教師を身近に感じ、本時のねらいを自分のこととして改めて感じたようである。



5 その他

- ・医者になろうと志した場面で発問をしてもよかった。
- ・葛藤させる場面で、あまり葛藤させることができなかった。
- ・自分ごととしてとらえきれず、荻野吟子はスゴイで終わってしまった児童もいた。
- ・発言する児童の偏りが感じられた。
- ・夢をもつことや夢に向かって努力すること、継続的に力を尽くすことのよさを感じ、自分もなんとかがんばっていこうとポジティブな思考をもつ児童が多かったが、直接、中1ギャップの解消をねらうことの難しさも感じた。



6 これらをふまえた考察（各校に関する考察）

- ・1 - (2) を取り上げることで、改めて自分の夢にむかって努力しようと心に強く思う児童が増える。このことにより、中学校生活に対する不安や中学校でやりたいことが見つからない児童にとっては、中1ギャップなどと言われる様々な困難に立ち向かっていこうと前向きな気持ちをもって中学校生活を送ろうとするのではないだろうか。また漠然と自分の将来について考えている児童にとっても改めて自分を見つめ、将来につながる目の前の様々な課題に対して意欲的に取り組もうとしたり、自分の今後について考えようとしたりするよい機会となった。
- ・道徳の時間を行うにあたり、指導例や板書計画などが用意されていると、教師も安心して授業を進めることができ、その余裕が児童たちの活発な発言を呼ぶことにつながった。
- ・夢に向かってがんばりたい、諦めないと強く思うことと今、目の前にある身近なことをがんばりきれない現実との差をうめていくような継続的な声かけや働きかけが必要である。
- ・学習面や生活面など様々な面で2極化が進む中、児童たち一人一人がそれらを受け止め、乗り越えていくためにも自分自身に関する1 - (2) はこの時期に重要になってくると考えられる。

【調査研究（道徳）検証授業に関する考察等】（小学校）

実施学級： 第 6 学年 2 学級

実施日：平成 2 5 年 1 0 月

1 各学級（学年）の実態等

事前アンケート等より、まとめる。（自己肯定感自尊感情、中 1 ギャップ等）

【教師から見た実態】

- ・ 1 組は自信がもてず、人の意見に合わせたり目立たないようにしたりしている子が多いことから、自尊感情が大変低いと感じている。「赤信号みんなで渡れば怖くない」の雰囲気がある。帰りの会「今日の MVP」コーナーで自分の行いが他人に認められるととても嬉しそう。
- ・ 2 組は、自分のめあてに向かってコツコツ努力する子がいる反面、すぐにあきらめる子が 1 割程度いる。クラスみんなで取り組む行事などは仲間意識をもって意欲的に活動する子が多い。
- ・ 学校生活の内容や生活リズムの違い、教科担任制への移行や部活動での先輩との人間関係、学習のスピードの変化、友達や先生との人間関係の変化等、環境が急激に変わることの中 1 ギャップがある・ややあると感じる。できる限りなめらかな接続を目指すべきと考えている。

【児童のアンケートから】

- ・ 1 組では「夢や目標がある・なんとなくある」は 88.8%で、全体のうち 4 人が「ない」と回答した。「今、夢中になって努力していることがある・なんとなくある」は 69.4%と前者より低い。
- ・ 2 組では「夢や目標がある・なんとなくある」は 92.3%で、全体のうち 3 人が「ない」と回答した。また、「今、夢中になって努力していることがある・なんとなくある」は 82.0%と、やはり前者より低い。

2 授業の実際

授業参観、授業者等のアンケート、聞き取り等により、まとめる。

(1) 事前指導等

- ・ 運動会組体操の演目の中で 6 年生による全員ピラミッドに挑戦し、成功させた。
- ・ 帰りの会で「今日の MVP」を紹介し、一人にスポットライトを当てて称賛することを継続してきた。
- ・ クラスの合い言葉「コツコツ、ドカーン！」

(2) 導入

- 「心のアンケート」結果のグラフから感じたことはありますか。
- ・ 夢や目標を持っている人が思った以上に多い

視覚化

(3) 展開

- 心に残った場面や感想はありますか

- ・ 反対されたのに夢に向かって努力したところ
- ・ 何度も断られたのにあきらめなかったところ
- ・ 最終的に合格して医師になったところ

言葉を解説

- 19歳の吟子は、周囲に反対されながらもどんな気持ちで勉強を続けていたのか
- ・ 皆に何を言われても反対されても医者になるまで絶対にあきらめない
- ・ 苦しむ人を救いたいという気持ちは反対されても変わるものではない
- ・ 辛い思いを他の人にさせたくない
- ・ 今は女性医師がいなくても私は絶対に医者になる

色チョークで囲む

- 優秀な成績で卒業したのに試験を受けさせてもらえない時の気持ち
- ・ 今までの苦労がすべて水の泡だ
- ・ こんなに頑張っているのにこのまま苦しんでいる人を救えないのか
- ・ もう後戻りはできない何としても医師になる
- ・ ここであきらめたら苦しんでいる人を見捨てるようなことだ

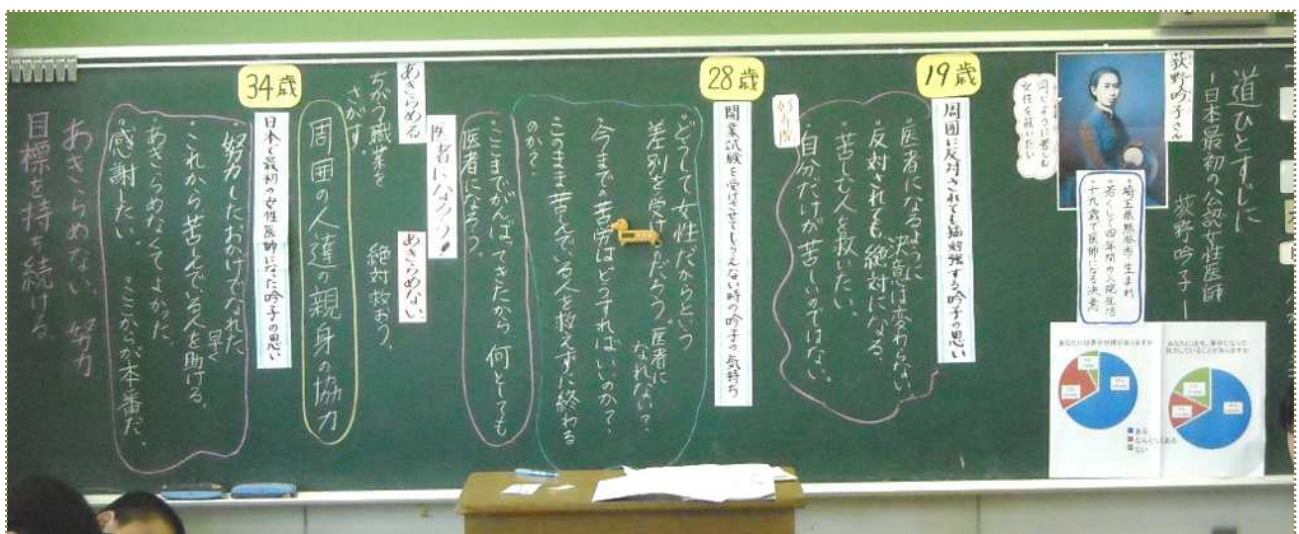
肯定的に受け止める

- どうしてそこまで合格したいのか
- ・ 苦しんでいる人を救いたいから
- 日本で最初の公認女性医師になった時の気持ち
- ・ 努力したおかげでやっと医師になれた
- ・ 医師になれたからといってまだほっとしちゃいけないし苦しんでいる人を助けることを忘れちゃいけない
- ・ あきらめなくてよかった
- ・ さあこれからが本番だ少しでも早くたくさんの人を救いたい

キーワード

(4)終末

- 自分自身のことを考えてみましょう
- ・ 自分にも夢はあるので荻野吟子さんのような生き方をしてみたい
- たくさんの困難はあったけれど努力で困難に立ち向かって乗り越え夢をかなえた荻野吟子さんの話でした



(5)事後指導等

- 卒業記念文集「将来の夢」の作成を通して、自己の生き方について考える時間を設けた。また、小学校卒業を節目に、新たな気持ちで目標に向かって挑戦していけるよう支援した。

3 児童生徒の反応

ワークシート、発言記録、板書等よりまとめる。箇条書き可。

【児童の感想】

視点1：夢や希望に向かって努力する

「夢や目標がない」と回答している児童が「夢・希望をもつことの大切さ」を感じている発言（田村・菅原）

- ・ぼくも夢が決まったらそれに向かって努力したい。
- ・医者へのまっすぐな思いがわかった。わたしもそう思えるような「夢」を見つきたい。

「自らの意志で人生を切り開こう」

- ・まだだれも挑戦していないことをやってみたくなった。

▼「努力すれば必ず叶うでいいか」

- ・努力すればかなえられるとわかった

▼夢や目標を変更することが良くないことととらえている

- ・料理人から保育士に変えてしまったので、道ひとすじにしたい。

視点2：しなやかな心をもつ 小中連携への効果を考えやすい

「現状の励みになった」

- ・将来に向けてやっていることがあるのでそれを積極的にやろうと思った。
- ・夢に向かった努力が継続できていないから、これからは継続したい。
- ・何回もあきらめたことがあったが、努力して目標を持ち続けることが大切だとわかった。

「思い通りにならない現状を小さな努力で乗り越えていこう」

- ・たとえ小さくても、コツコツとやってあきらめなければ夢は叶うと思った。
- ・すぐにあきらめずに、何度も挑戦し続ける。
- ・何事も努力をすれば報われる（その夢がかなわなくてもよい方向にいくという意味？）

試験に受かって、これからが大切

視点3：上記以外

▼「主人公と自分を重ねられない」

- ・荻野吟子さんと自分とはレベルが違いすぎる

▼「失敗」「挫折」「困難」「苦労」の違い

【考察】

- ・本資料で中1ギャップの軽減を直接ねらうわけではないが、自分自身の「中学校での環境の変化に苦しむ」と、主人公の「夢に向かって努力している途上で挫折しそうになる」の性質に大きな差があるように感じた。
- ・授業の中では、どの段階の問いでも迷いなく「努力して乗り越える」と発言する児童が多く、やや過剰な自信が感じられることから、「困難があっても立ち向かえばよい」と安易に考えている傾向が見られる。→困難に直面した時の強さとは別ものの発言が多い。

4 授業の効果等

授業後アンケート、授業者の側から見た授業例についての感想等より、まとめる。箇条書き可。

「小中連携」の視点をもって授業に臨めたこと自体に意義を感じた。

資料を振り返って、児童の言葉でまとめることができた。

→児童の思考に無理のない展開であった。

- ▼主人公のおかれた状況に共感させるための、効果的な資料提示の工夫はないか。
- ▼価値について話し合う時間を十分にとることができなかった。どこか省けるところはないのか。

5 その他

協力員として、気づいたこと等まとめに生かせることがあったら、記入する。

- ▼「職業＝夢」ととらえて、医師になることが目的であると誤解している。
→本来の「苦しんでいる人を救う」という大目的を見失わないようにするための補助的な発問が必要か。例：主発問（葛藤場面）の話し合いで「どうしてそんなに医師になりたいの」等
- ▼小学校段階では大きな環境の変化や困難に直面する経験に乏しく、主人公の気持ちに共感するのが難しいのではないか。

6 これらをふまえた考察（各校に関する考察）

上記等の記録より、有用性、改善の方向等、考察を記入する。

- ・授業例の中で「中1ギャップの軽減」についての視点を、強くアナウンスする必要があった。受け取る側のそれぞれのやり方があるため、発問や流れ等はあくまで例として軽く示し、研究に関する部分を「ここだけ外さなければ効果をねらえます」として大きくわかりやすく示した方がよいと感じた。

【調査研究（道徳）検証授業に関する考察等】（小学校）

実施学級： 第 6 学年 2 学級

実施日：平成 25 年 12 月

1 各学級（学年）の実態等

- ・全体の傾向として、中学校に入学することを楽しみにしている児童が多い。アンケートの結果を見ると、説明会を終え、中学校の生活がどのようなものか知っているものの、「中学生になると嫌なことが少しある」と回答した児童が 6 割を超える。また、約半数の児童が、中学校に入学するのに「不安」と回答している。
- ・各クラスとも、最高学年として、優しい気持ちで低学年の世話をしようとする児童が多いが、1～2 割程度の児童は自尊心の低い回答を示した。「中学生になったらやってみよう」という質問項目に対しても、「あまりない」「まったくない」と回答した児童が半数いる。
- ・「夢や目標がある」「なんとなくある」と回答した児童が全体の 9 割、「夢中になって努力していることがある」「なんとなくある」と回答した児童が全体の 8 割と、アンケート結果から 1 - (2) に関して、高い意識をもっていると言える。また、「目標をしている人がある」と回答した児童は 7 割、「『こんな生き方をしてみたい！』と思える人がある」と回答した児童は 1 割であった。近い将来の目標はあっても、自分の生き方までを見通している児童は少ないと言える。

2 授業の実際

(1) 事前指導等

- ・音楽会やレッツ○○ウォーキングなどの行事への取組を振り返る。
- ・中学校の入学説明会（東中・南中同日）

(2) 導入

- ・夢や努力していることのアンケートの結果を知り、感じたことを発表する。
例：夢や目標がある ある・なんとなくある → 89%
夢や目標に向かって努力している・なんとなくしている → 84%

アンケートの結果を知ることによって本時のねらいとする価値への興味・関心を高める。
将来への夢、近い目標に向けて、努力していることをおさえる。

(3) 展開

- 周囲に反対されながらも、吟子はどのような思いで医師になるための勉強に励んだのか。
- ・なぜ女ではダメなのか。
- ・続けていけば、入れるかも。頑張って続けていこう。
- ・同じ苦しみをもった女性を救いたい。頑張ろう。
- 医学校を卒業してからも、女性であることを理由に開業試験を受けさせてもらえなかった吟子は、どのような気持ちであったか。
- ・せっかくここまでできたのに。がっかり。
- ・なんで？男の人はいいいのに…。もうダメなのか。
- ・何か方法はないのかな。（→頑張ってみよう）

吟子の境遇をしっかりと押さえてから発問

「どうしてこんなに頑張れるの？」
と切り返し、強い信念と希望をもっていたことを押さえる。

「吟子はずっと落ち込んでいたかな？」
と切り返し、吟子が強い意志で自分の困難を乗り越えていこうとする気持ちを引き出す。

- 開業試験に合格し、日本初の公認女性医師になった吟子はどのような思いであったか。

- ・頑張ってきて、良かった。たくさんの人を救おう。
- ・つらいことを乗り越えて、頑張ってきた。

- 本時の学習から自己の生き方を見つめる。

- ・私はあきっぽい性格なので、吟子さんはすごいなあと思いました。私も夢をあきらめないで、将来やりたい仕事をやりたいです。
- ・すぐに諦めてしまうところが私にはあるので、吟子のどんな逆境でも諦めずに、希望を持ち続けるところを見習いたいです。私も夢に向かって頑張りたいです。
- ・やっぱり努力をしないと、夢はかなえられないのだと思えました。これからは、何も行動しないのではなく、何か一つでもいいから始めてみようと思いました。



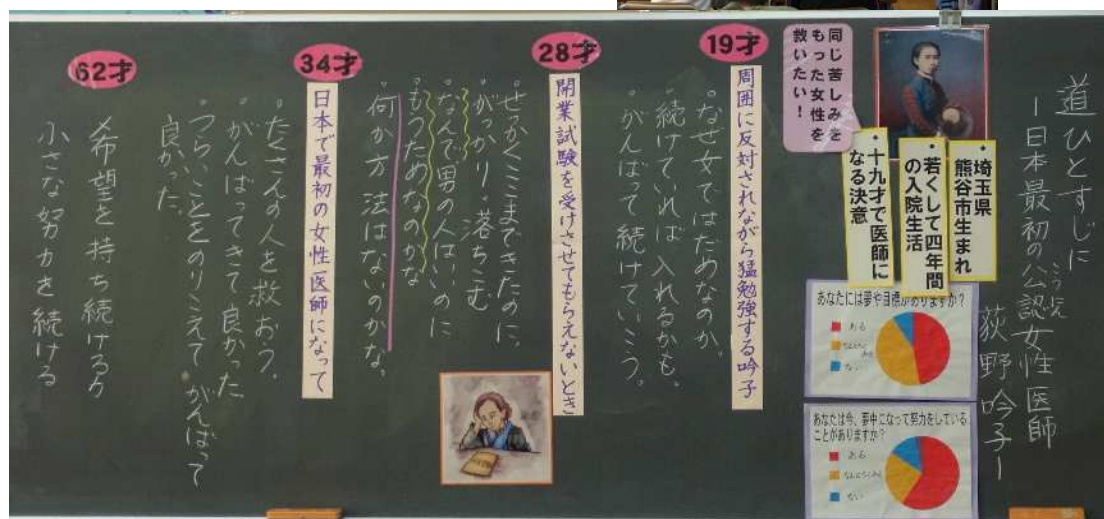
- (4) 終末

- ・教師の説話

- (5) 事後指導等

- ・3学期に、卒業に向け、自分の目標を立てる。

- (6) 板書



3 児童生徒の反応

- ・「吟子はずっと諦めなかったけど、私はすぐあきらめてしまうから、ちょっとのことで諦めないようにしたい」など、ねらいとする価値にせまれた児童も多かった。
- ・「吟子のように成長したい」「夢に向かって頑張りたい。諦めずに努力して頑張る」「最後まで努力すればできることがあるんだなと思いました」など前向きな意見が多く出た。
- ・「吟子が試験を受けられなくて、『もうだめなのかな』という意見が同じだと思いました。」のように、友達の意見に共感したり、自分の考えを比較したりするなど話合いに意欲的に参加した児童が多くいた。
- ・「努力し続け、希望を捨てずに頑張れば、いつかその頑張りは伝わるということを吟子さんに気づかされました。」のように、資料の吟子の生き方に感動し、学ぶことができた児童が多くいた。

4 授業の効果等

- ・夢や努力していることのアンケートを導入に活用したことで、自分たちが夢をもっていることや夢に向かって努力していることへの意識付けを図ることができた。
- ・時系列で、順を追って主人公吟子の思いを発問した。そのため、児童たちは発言しやすかったようである。また、主人公吟子の気持ちを深く考えていた児童もいた。
- ・荻野吟子の生き方から、吟子の思いを考えるを通し、困難に負けずに努力を重ね、夢を達成する素晴らしさを感じ、「自分も頑張りたい」と前向きな気持ちになれた児童が多かった。
- ・教師の体験談を伝えていたことで、身近に感じていたようである。じっくり聞いている児童が多かった。

5 その他

- ・導入で、「目の前の課題を乗り越える、小さな努力を重ねていくこと」の大切さを意識させ、よりねらいとする価値を焦点化することは難しかった。多くの項目についてアンケートを実施しているので、提示する内容についてもう一度考えたい。
- ・切り返しの補助発問を考えておくことで、ねらいとする価値に迫ることができた。
- ・吟子の素晴らしい生き方に感動している児童が多く、この資料で葛藤させることは難しいように思う。
- ・「荻野吟子は諦めずにすごい。でも、自分にはできないと思う」などの意見があった。価値理解はできても、自分と結び付けて考えることが難しかったようだ。
- ・努力する大切さを理解し、努力したいという意欲をはぐくむことはできた。しかし、直接中1ギャップの解消をねらうことは難しさも感じた。
- ・指導例や板書計画などが用意されていると、教師も安心して授業を進めることができ、その余裕が児童たちの活発な発言を呼ぶことにつながった。荻野吟子の生き方について、授業ですぐに提示できる資料が他にもあると効果が高まると思う。

6 これらをふまえた考察（各校に関する考察）

- ・1 - (2) のよい資料で考えることで、諦めずに努力することの大切さを感じ、改めて自分の夢にむかって努力しようと心に強く思う児童が増える。このことにより、中学入学後に児童が様々な困難に出会っても、前向きな気持ちで立ち向かおうとするのではないだろうか。そのことが、中1ギャップ解消につながるのではないかと考える。
- ・自分の将来について漠然と考えている児童にとっても、自分の将来や、目標について考えるよい機会となり、自分の将来に前向きな気持ちをもつことができた。
- ・夢に向かってがんばりたいと考えた児童が多いが、そのために、目の前にあることを一つ一つ頑張るように、継続的な声かけや働きかけを行うことが大切である。
- ・3ヶ月後に控えた中学校生活に楽しみと不安をもっている児童にとって、新しい環境での困難を受け止め、乗り越えていくためにも自分自身に関する1 - (2) はこの時期に重要になってくると考えられる。

小学校授業例を活用した検証授業についての成果と課題

1 自己有用感、自尊感情等の観点について

(1) 成果

- ・全体として自尊感情が低い傾向があったが、「将来に向けて積極的になりたい」「これからは継続したい」「努力すること、目標を持ち続けることが大切だ」等の意見が出ており、実践意欲をもってこれからの生活に取り組もうとする姿勢が感じられた。また自分の将来について考えるよい機会となった児童も多かった。中1ギャップなどの様々な困難に立ち向かっていこうとする意欲が高まったと考えられる。
- ・事前アンケートで「夢や希望がない」と答えていた1割程度の児童からは、「わたしも夢を見つきたい」等の感想が見られた。自尊感情が高まったように感じる。
- ・将来について漠然と考えている児童にとっては、将来につながる目の前の様々な課題に対して意欲的に取り組んだり自分の今後について考えたりするよい機会となったようである。
- ・目標を達成する途上で諦めてしまうことの多い児童からは、「今まではすぐ諦めちゃったけど、頑張っていればできたこともあったと思う。これからは、小さなことでも、コツコツやっていきたい」との感想が見られた。

(2) 課題

- ・今回の授業を通して、「努力している自分」に気づかせ、自尊感情をより高めていきたかったが、自分のマイナス面に目を向けた児童も多くいた。
- ・児童の自尊感情をより高めるために、事前や事後の活動を他の教育活動と関連づけ、道徳の時間を要として、総合的に自尊感情を育んでいく必要がある。

2 中1ギャップ解消という観点について

(1) 成果

- ・荻野吟子の生き方に触れたことで、「夢をもつこと」「夢に向かって努力すること」「継続的に力を尽くすこと」のよさを感じ、自分も頑張っていこうとポジティブな思考をもつ児童が多かった。
- ・自尊感情の高まりや1 - (2)のねらいに迫る発言が多く見られた。このことが、中1ギャップ解消につながると考えられる。

(2) 課題

- ・これからの中学校入学で、環境の大きな変化が要因となって、目的意識を失う生徒が増えてくる傾向がある。発達段階に応じた適切な目的意識を持たせるために、自己の生き方について考えを深める必要がある。今回の授業では、直接、中1ギャップの解消をねらうことの難しさも感じられた。
- ・道徳の授業で学び、感じたことを、実際の生活に生かせるようにすることが大切である。

3 1 - (2)をねらいとした授業としての効果

(1) 成果

- ・「夢は諦めなければ叶う」「夢に向かってがんばることが大切」ということに気づき、「いつもは途

中で諦めてしまうけど、今日勉強してみて、諦めないでがんばろうと思った」など、困難があってもくじけずに努力しようと考えた児童が多かった。

- ・「夢や努力していること」のアンケート結果を導入で活用することにより、夢をもっていることや夢に向かって努力していることへの意識付けを図ることができた。
- ・事前アンケートで「夢や目標がない」と回答していた児童が、事後の感想では「夢に向かって努力したい」等と書くなど、児童の意識に変容が見られた。
- ・荻野吟子さんと自分はレベルが違いすぎるとつぶやいていた児童が、教師自身が困難を乗り越えた体験談を説話として伝えたことで身近に感じ、ねらいとする価値に迫ることができた。
- ・以上のことから、中1ギャップを解消するという観点で考えると、内容項目1 - (2) を扱うことはとても有効であると言える。

(2) 課題

- ・中1ギャップの解消を本資料によって直接ねらうわけではないが、児童の課題となる「中学校での環境の変化に苦しむ」ことと、主人公の「夢に向かって努力している途上で挫折しそうになる」ことの性質に大きな差があるように感じた。
- ・「目の前の課題を乗り越えるために、小さな努力を重ねていくこと」がギャップをうめることにつながることを意識させることは難しかった。発問の内容をよく考え、教師が児童に考えさせたいことを押さえた補助発問を用意し、ねらいに対して十分に深められるようにする必要がある。

4 「その他」や「考察」等で配慮すべき視点の例

(1) 成果

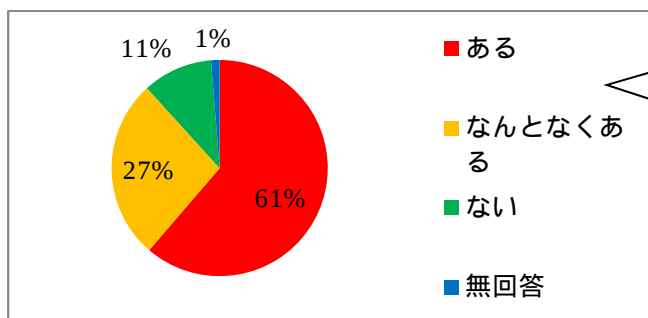
- ・指導例や板書計画などが用意されていると、教師も安心して授業を進めることができ、その余裕が児童たちの活発な発言を呼ぶことにつながった。
- ・担任が、「中1ギャップ」解消との関連を意識して、事前・事後指導とつながりのある道徳の授業を行うことで、より効果が出やすくなっている。

(2) 課題

- ・「中1ギャップ」の解消についての視点を、授業例の中でしっかりと示す必要がある。例としての発問や流れの中で、「これだけは押さえる」部分を明示することで、要としての道徳の時間でよりねらいに迫ることができると考える。
- ・小学校段階では大きな環境の変化や困難に直面する経験に乏しく、主人公の気持ちに共感するのが難しいのではないかと考える。自分事として考えるために、児童にとって身近な内容の資料で考えることも大切である。

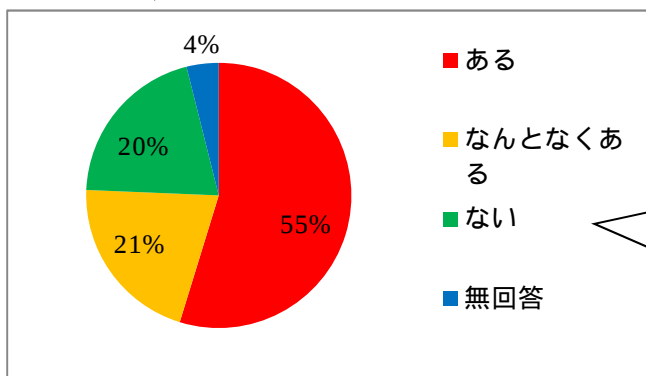
小学校児童向けアンケート結果より(3校7学級)

○ あなたには夢や目標がありますか。



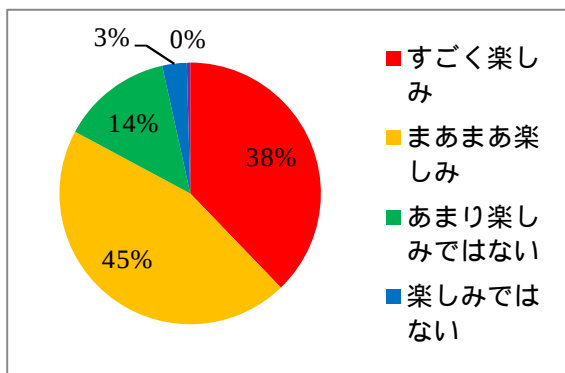
「ある」、「なんとなくある」と答えた児童が約90%いる。ほとんどの児童が将来就きたい職業を書いていた。中には、「長生きしたい」「金持ちになりたい」等、漠然と将来を考えている児童もいた。

- あなたは今、夢中になって努力をしていることがありますか。

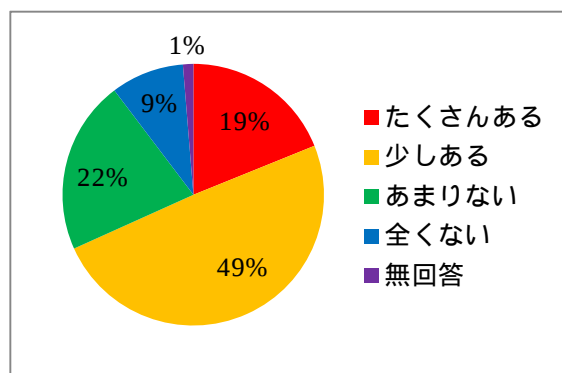


「ある」、「なんとなくある」と答えた児童が約76%いる。ほとんどの児童が、スポーツや習い事、日常生活の中でのことを書いており、自分の将来の夢に向けて努力している児童は少なかった。中には「中学に向けて勉強」と書いた児童もいた。

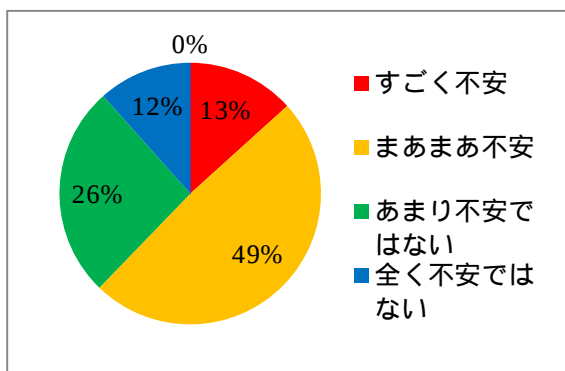
- 中学校に入学するのは楽しみだ。



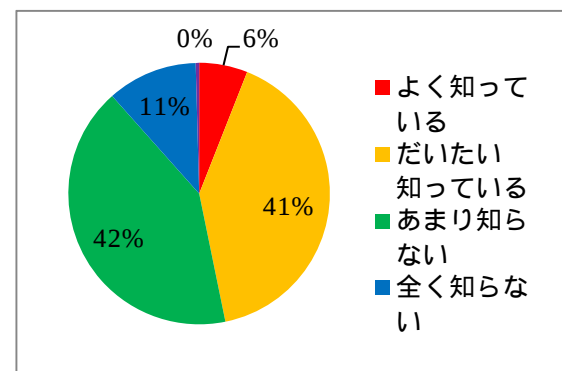
- 中学生になったらやってみたいことがある。



- 中学校に入学するのは不安だ



- 中学校の生活について知っている。



アンケートより、中学校生活を楽しみにしつつ（約83%）も、中学校に入学することに不安を感じている（62%）のが分かる。制服の着用や部活動等、小学校との違いがいろいろあることを知っている児童が多く、その違いを楽しみにしている反面、友達関係や部活動、勉強等に対して、不安を抱いているようだ。「中学生になったらやってみたいことがない」と回答した児童が30%もいることから、中学校生活に対し前向きな気持ちをもちににくい様子が見えてくる。

内容項目1-（2）についてのアンケートから、夢や目標がある児童、夢中になって努力している児童が多いことが分かる。また、半数以上の児童が「あこがれている人」や「目標とする人」がいないと回答している。しかしながら、「『こんな生き方をしてみたい』と思える人」がいないと回答した児童は、2割程度でしかない。

自分の将来の夢や、近い将来の目標に向かって努力しているものの、強い信念や希望まではもっていない傾向があるといえる。このような児童に、埼玉県の人である荻野吟子が自分の夢に向かって数々の困難を乗り越え、努力し続けたことを知り、その強い信念や生き方を考えることは、非常に大切である。また、夢や目標に向かって努力する際には、困難に出会うことがあることやその困難を乗り越えて一歩一歩進むことについての大切さを考えさせる必要がある。

「 心の涼風 」

着実にやり抜く強い意志 1 - (2) 希望・努力

【資料について】

様々な体験を通して人は成長する。その過程には困難や苦痛を伴うことがあるが、それを乗り越える中から「自信」をつけたり、「生き方」を学ぶことができる。

思い通りにならず目標をあきらめる経験は誰にでもある。努力を重ねることで新たな自信を取り戻す。弱気と強気の狭間で生きる中学生が、困難に屈せず粘り強く最後までやり抜く清々しさから、ねらいとする価値にせまりたい。

【小中連携に係る視点】

- ・生徒にとって同質性の高い資料で、より良い生き方を求めて自分の切実な問題として自覚を深めさせることができる。
- ・中学生になると思い通りにないことがあるとわかってくるが、それでも一步一步努力して前進していくことが大切だと考えさせたい。
- ・誰もが抱える不安が資料と重なる。失敗は成功への過程である。過程が大切だと考えさせたい。

ね ら い

- より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。

授業の流れ

- アンケートの結果を発表する。



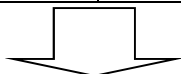
- 主人公「 康雄 」の気持ちを中心に話し合う。

- (1) 誠に「うまくいかない自分から逃げたいだけだろ」と言われた時、康雄はどんな気持ちだったのだろうか。
- (2) 誠からの手紙を読んだ時、康雄はどんな気持ちだったのだろうか。
- (3) ノートを見ながら康雄は何を考えたのだろうか。
- (4) 康雄に大会に出ようと決させたものは何だったのだろうか。

- (1) 失敗に対する恐れ、焦り等、接続期に誰もが感じる不安に共感させる。
- (2) 思うようにいかない悔しさや、くじけそうになる気持ち、その反面これで良いのかと揺れ動く康雄も気持ちを捉えさせる。また、支え合ってきた誠に対する感謝や、申し訳ない思いを捉えさせる。
- (3) 3年間この大会のために頑張ってきたことを思い出し、どうしようと悩む康雄の心の内を捉えさせる。

【小中連携に係る視点】思い通りにならなくても一步一步努力することの大切さに気づかせる。

- (4) 失敗は成長の過程であることに気付かせる。



- 生徒指導関係で、地域の小学校に指導に出向いている教員の説話を聞く。

他の教育活動との関連

- 目標を立てることだけに重点を置くのではなく、困難に当たった時の心構えや方策を明らかにする。
- 学年、学期初めの目標設定などを通して、目標に向かって努力することの素晴らしさを味わわせる。

【調査研究（道徳）検証授業に関する考察等】（中学校）

実施学級： 第 1 学年 3 学級

実施日：平成 2 5 年 1 0 月

1 各学級（学年）の実態等

- ・多くが「自分が認められている」という意識のもと、明るく前向きに生活できている学級である。一方で自分を否定的にとらえるような感じがある。他人の意見に左右され、自分の思いを大切にするといった面は少し弱い面がある。

2 授業の実際

（ 1 ）事前指導等

体育祭や部活動の新人戦を終えたばかりであるので、生徒の中には目標に向かって努力したものの、うまくいかなかった経験を有している者も多い。



（ 2 ）導入

○アンケートの結果を提示

Q 1 みんなの夢は何ですか？

- ・スポーツ選手・花屋・ピアノの先生・パティシエ・金持ち・宇宙飛行士

Q 2 中学校の目標

- ・部活をがんばる・勉強・友達と仲良く

Q 3 挫折をしたこと

- ・部活でレギュラーになれなかった。
- ・急にプレーがうまくできなくなった。
- ・選手として試合に出たが、活躍できず、レギュラーからはずされた。



（ 3 ）展開

○発問と話合いの実際

展開の前に条件情況は丁寧に説明した。

Q 1 誠に「うまくいかないから、逃げたいだけだろ」と言われた時の気持ちは？

- ・けがをしたことにより焦りがあるのではないか。
- ・誠はうまくいっているからそんなことを言えるのではないか。
- ・思うようにうまくいかない自分にいら立っているのではないか。

Q 2 誠からの手紙を読んだとき、康雄はどんな気持ちだったでしょうか。

- ・友達の支えがあってありがたい。また頑張ろうと思ったのではないか。
- ・手紙をもらったが、あまり頑張ろうと思わなかったのではないか。失敗したら嫌だという気持ちがあるのではないか。

Q 3 ノートを見ながら康雄は何を考えたのでしょうか。

- ・自分の記録を見ながら、成長していく自分を見つめなおしたのではないか。
- ・ノートは自分の努力の結晶。今までの努力が水の泡になるのではないか。

Q 4 康雄に大会に出ようと決意させたものは何でしょうか？

補助発問として「『心の涼風』が吹いたとはどのようなことか。」を用意した。

- ・達成感や爽快感があったのではないか。
- ・失敗したけどやりきってよかった。

(4) 終末

終末は担任教師が挫折した経験を説話してもらった。ねらいとしては、担任教師をモデルとして、挫折を乗り越えてほしいということがある。

(5) 事後指導

今後行われる音楽会や部活動での大会など、目標に向かって努力する場面で、指導に生かしていく。

3 児童生徒の反応

・この話を、みんなで話し合っ、あきらめないことが大事なんだなあ、と思いました。もし、あきらめて

いたら、康雄の心の中に「涼風」は吹くことはなかったと思うし、誠たちの輪に入れなかったと思う。やる前からあきらめるのではなく、何事もチャレンジが大事なのだと思いました。この道徳で学んだことは多いです。

・自分がソフトボールをやっていて怪我をしてしまったときは、みんなから遅れたらどうしよう、といった不安で練習を休みがちだったけれど、これを読んで、康雄が大事な最後の大会前に怪我をしてもあきらめなくてハードルを続けているところを見て、少し嫌なことがあってもあきらめなくて続けると達成感があっていい気持ちになれるのだと思いました。

・僕は6年生の11月ぐらいにサッカーのクラブチームを辞めました。理由は簡単です。つらかったからです。そのチームは、コーチが元日本代表だったので、とてもきつかったです。そのためにもうあきらめようと思い、あきらめました。今思うと、とても恥ずかしいので、部活ではがんばってつらいことも乗り越えていきたいです。

・私は康雄のようにしっかりした目標をもつこととその目標に向かっていく途中、何があっても逃げたり、あきらめたりしないことを学びました。私にはバレーボールで県に行くという目標があります。その目標は私だけでなくバレー部員13人の目標です。その目標達成の途中、何があってもみんなががんばって県大会に行きたいです。

4 授業の効果等 事後授業者アンケート等より

(1) うまくいったと感じたところ

アンケートからの導入だったので、生徒に課題意識をもたせることができた。ロールプレイなど多様な話し合いの形式ができた。

(2) うまくいかなかったところ

主人公が中学校3年生の設定なので、共感しづらい部分があった。話し合いを深めさせる工夫が不十分だった。

説話について

・教師自身の失敗談などを話すと効果的。
教師自身の挫折の経験やその挫折からどのように立ち直ったかなどを説話する。

効果的な事前・事後指導		
事前指導	・部活動での挫折(特に新人戦や夏休みの取組) ・体育祭での挫折	事前指導では内容項目について、課題意識を持つような課題を把握する。
道徳	「心の涼風」	
事後指導	・合唱祭や今後の部活動、学習での目標などを作らせる取組	道徳で学んだことを生かせる活動を把握し、生かすような工夫を行う。

指導案を確認し、話し合いの方法について習熟したい。学級の実態に合わせ、補助発問を用意し、十分に話し合いを深めさせたい。

(3) 授業を通して、生徒の様子はどうか

内容が自分たちと同じ中学生、そして部活動に関することだったので、普段より意欲的に取り組んでいた。

5 その他

価値項目が1 - (2) はよいと考える。中1ギャップの原因として小学校時代にはなかった多種多様な活動が増え、戸惑いを覚えることが原因の一つであると感じるからだ。資料の内容が、中学生に身近な内容で共感を得やすいと考える。普段の道徳の授業でもそうであるが、読解力や想像力が低下している昨今、資料の主人公に共感しづらい資料では、授業に深まりが生まれなくなっている現状があるからだ。共感を得やすい資料で、目標に向かって努力する心情を育むことで、中1ギャップを確実に解消する内面を育成できると考えた。

一方で、担任によって、道徳の時間の指導力に差があることを念頭に置かなければならない。指導案があり、一度授業を見た教師であっても、指導過程に戸惑いを見せていた。この資料を扱うに当たって、道徳の指導法の確認や授業の流れを十分確認しておく必要がある。また、中学校1年生を対象に授業を行うに当たり、主人公が中学校3年生という設定であることを踏まえて、条件状況を丁寧に説明し、共感を得やすくすることや小学校時代の似たような体験を想起させるなどの工夫が必要である。

6 これらをふまえた考察(各校に関する考察)

中1ギャップの原因として、中学校入学後に小学校の活動より活動範囲が広がり、求められる質も高くなることによって、自尊感情や自己有用感がもてなくなることがあげられる。それを解消するために、道徳の授業においては、それらに關係する内容項目を重点化し、着実に内面化させることが必要である。今回は内容項目1 - (2)「着実にやりぬく強い意志」を重点化することで、中1ギャップを解消できると考えた。今回の授業実践では、その有益性が多く認められた。

小中の教員のアンケート結果によると、小学校の教員は「なめらかな接続」を望む傾向があるのに対し、中学校の教員は「乗り越えるべき」という意見をもっている傾向にある。それは、中学校の教員がその発達段階において、身につけてほしい能力として子供たちに求めているからだと考えられる。中学校段階においては、中学校での発達段階にふさわしい能力を身につけさせるにあたって、より具体的な支援を考える必要があると考える。

この資料では内容項目1 - (2)について考え、話し合うとともに、描かれている主人公の生き方からも多くが学べる。挫折を乗り越える主人公の姿は、生徒たちの共感を呼び、気持ちを重ねて考えることができる。さらに、この指導案では、話し合いを深めさせる工夫が随所に示され、初任者や経験の浅い教員でも、無理なく指導できるように作られている。

これらの有益性を十分に生かすことで、中1ギャップの解消につなげていけると考えた。

【調査研究（道徳）検証授業に関する考察等】（中学校）

実施学級： 第 1 学年 4 学級

実施日：平成 25 年 10 ～ 11 月

1 各学級（学年）の実態等

- ・自己を大切にしようという気持ちを持っている生徒が多い。その反面、他者を尊重しようという気持ちが弱いと感じる。
- ・物事を前向きに考えようとする生徒が多く見られる。ただ、他人から否定されてしまうと、落ち込み、他と比べて単に優越感に浸っているだけという気がする生徒も少なからずいる。自分の考え方ややり方に自信がないような印象を受ける。
- ・やりたいことや目標がしっかりとあり、自分の意見をはっきりといえる生徒は少ない。その場しのぎであったり、なんとなくといった生徒が目立つ。
- ・自己肯定感は十分に感じるが、なかなかうまく表現できない。また、その自信が持てないようである。自分が大切である一方、他者との関係の中でうまく表現できない生徒も多い。
- ・校種の違いによる指導法の変化、学習や部活動がとても忙しくなったこと、校則が厳しくなったこと、自由時間が減ったこと、人間関係などが原因で中 1 ギャップが感じられる。

2 授業の実際

(1) 事前指導等

- ・学級活動 目標の立て方を知り、実際に目標を立ててみる。（ライフスキル教育）

(2) 導入

アンケートの結果、「今までの部活動において、前向きになれなかったことがありますか。」という質問に対して、全体の約 55% が「ある」と答えている。4 クラスとも、事前に実施したこのアンケートをもとに、最近の部活動の取り組み方や、部活に対する悩みや挫折感など身近な話題を取り上げて生徒に興味を持たせるようにしていた。

Q 最近の日記の中に、部活に対する悩みが多く書かれているんだけど、悩みのある人はどれくらいいますか？

Q それは具体的にどんな悩みなの？

(3) 展開

○条件・状況について

各クラスとも、用意されていた短冊を使い、説明を加えながらスムーズに行うことができた。

○柱立てについて

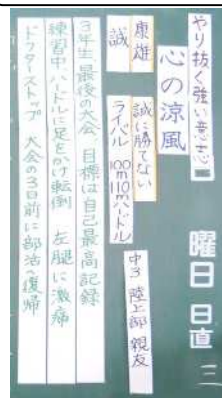
範読の後、心の残った個所を生徒に聞いたクラスと、担任が発問を示すクラスがあった。

○発問 1 誠に、「うまくいかないから、逃げただけだろう。」と言われた時の康雄の気持ちはどんなだったでしょうか。

- ・言われてむかついた。傷ついた。ばかにしているのか。
- ・悔しかった。今まで必死に練習してきたのに・・・。
- ・足が痛いのにそんなこと言われてショックだ。
- ・できるやつに言われて嫌な気持ち。
- ・わかっていることだから余計に言われたくない。自分にイライラする。

キーワード...「俺は何をしているのだろう。」
心の中では、言われたことは本当のことだとわかっている主人公の気持ちを押さえる。

「友情・信頼」に
流れないポイント！



・言われたことは本当だ・・・。

* 康雄の気持ちに十分共感することができた。

○発問2 誠からの手紙を読んだ時、康雄はどんな気持ちだったでしょうか。

- ・誘ってもらえてうれしかった。
- ・理解してもらえてよかった。
- ・自分のことを考えていてくれたのか。
- ・こうしてくれるのなら出てみようか。
- ・イライラの原因を誠にぶつけていただけだった。
- ・逃げたい思いをごまかしていただけかも。

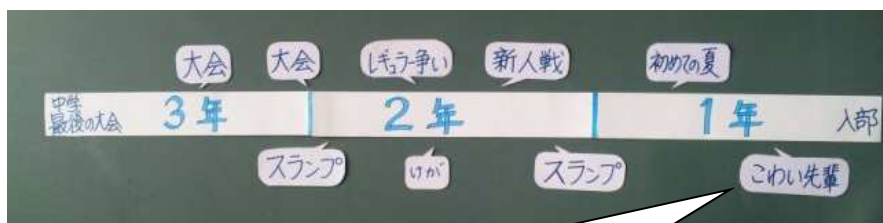
主人公の心情に
せまるための手立
て・・・役割演技

「友情・信頼」に流れないポイント！

「友情・信頼」に流れた時の補助発問
誠が謝ってくれたから大会に出るの
でしょうか。最後まで一緒に出たいと思
うのは何故でしょう。

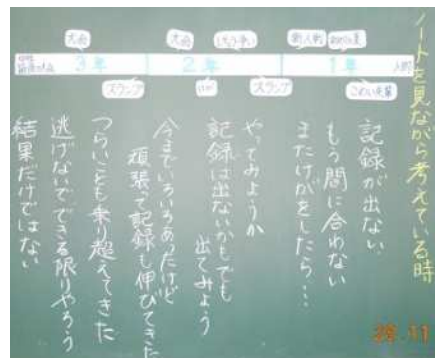
各クラスとも、手紙を読んだ場面で生徒が康雄、教師が康雄の心の声役で、役割演技を行った。切り返しの質問を十分に用いて、生徒の心を揺さぶり、次の発問につなげたい。

○発問3 ノートを見ながら康雄は何を考えたのでしょうか。



ノートの内容がイメージしやすいように工夫した。また、生徒のアンケートに書いてあったことも付け足してより身近なものになるように工夫した。

- ・あきらめるしかないのかな。
- ・最後まで誠と競いたい。
- ・認めたくないけど、言われたことはその通りだった。
- ・記録もよくなかったけど努力してきた。
- ・自分に負けたまま終わりたいくないから出よう。
- ・今までいろいろなことを乗り越えてきた。今度も乗り越えていこう。
- ・最後までやり通そう。



主人公の心情にせまる
ための手立て・・・小グル
ープでの話し合い



○発問4 康雄に大会に出ようと決心させたものは何だったのでしょうか。

- ・手紙
- ・自分の成長は誠のおかげ。最後も一緒に出たい。
- ・ノート・・・苦しいことを乗り越えてきたから
- ・目標をつら抜こうとする気持ち

○振り返りシート

- ・今日の学習を通してどんなことを感じ、学んだか。また、これからの生き方についてワークシートに記入した。

(4) 終末

各担任の体験談。七転び八起き of 格言。



1	主人公の立場にたって考えた。	A B C
2	自分の考えを発表した。	A B C
3	友達の意見をよく聞いた。	A B C
4	自分の生きかたについて見つめることができた。	A B C

(5)事後指導等

現在の部活動や、学習、また、これからの部活動や進路などで、自分の決めた目標に向かってあきらめずに努力し、前進していかなければならない場面で、指導に生かす。

3 児童生徒の反応

- ・部活をまじめにやっているつもりでも、あまりうまくいっていないので、部活を今まで以上に頑張ってやっていきたい。くじけても、やり直して一生懸命頑張りたい。
- ・今日のお話で、ちゃんと最後まで頑張ることを忘れないようにしようと思いました。できない所があっても、あきらめないで何回も練習して頑張ろうと思います。
- ・私も部活に前向きになれなかったけど、たとえどんなことがあっても、最後までしっかりあきらめずにやり抜いていきたいと思いました。また、最後の大会で結果を残すことができなかったてもやり抜くことに意味があるから頑張っていきたいと思いました。
- ・今日は陸上部の話でした。私も常にダンスでライバルがいます。センターを争ったり、ソロを狙ったりします。部活ではないですけど、気持ちがよくわかりました。これからは、康雄みたいに途中であきらめず、最後までやり遂げたいです。そして、悔いのない毎日を送れるように、日々前に向かって努力したいと思いました。
- ・この資料を読んで学んだことは、前へ前へ向かっていくことです。

4 授業の効果等

(1) うまくいったと感じるところ

- ・ねらいとする価値からずれそうになった時の方向修正。
- ・部活動に対しては少なからず人間関係やくじけてしまっって最後まで続けられない生徒もいるので、あきらめずに努力することの大切さなどについて考えさせる良い機会となった。
- ・発問に対して、一生懸命考え、切り返しの発問にもよく答えていた。
- ・小グループの話合いから、クラス全体の話合いが思った以上にうまくいった。

(2) うまくいかなかったところ

- ・主人公が110mハードルに出る、出ないの心の葛藤について話合いをさせる所がうまくいかなかった。
- ・友達との友情の部分と、あきらめずに頑張ることに生徒の考え方の方向性が分かれたので、ねらいに向けて、どのように授業を進めていくかが難しかった。
- ・ねらいとする価値からずれてしまう生徒が多かった。

(3) 授業を通して、生徒の様子はどんなだったか。

- ・部活動のことなので、食いつきやすさはあったが、今現在の生徒の実態から、主人公の気持ちやねらいとする価値からそれてしまいそうになっていた。
- ・自分の身近な問題として受け止め、深く考えていた生徒が多かったように思った。

(4) 授業例があることは、授業の充実につながるか。

つながった 3名 まあまあつながった 1名

(5) 授業例があることは、指導する側の意欲につながったか。

つながった 3名 まあまあつながった 1名

(6) (この授業が) 生徒の変容につながると感じられるか。

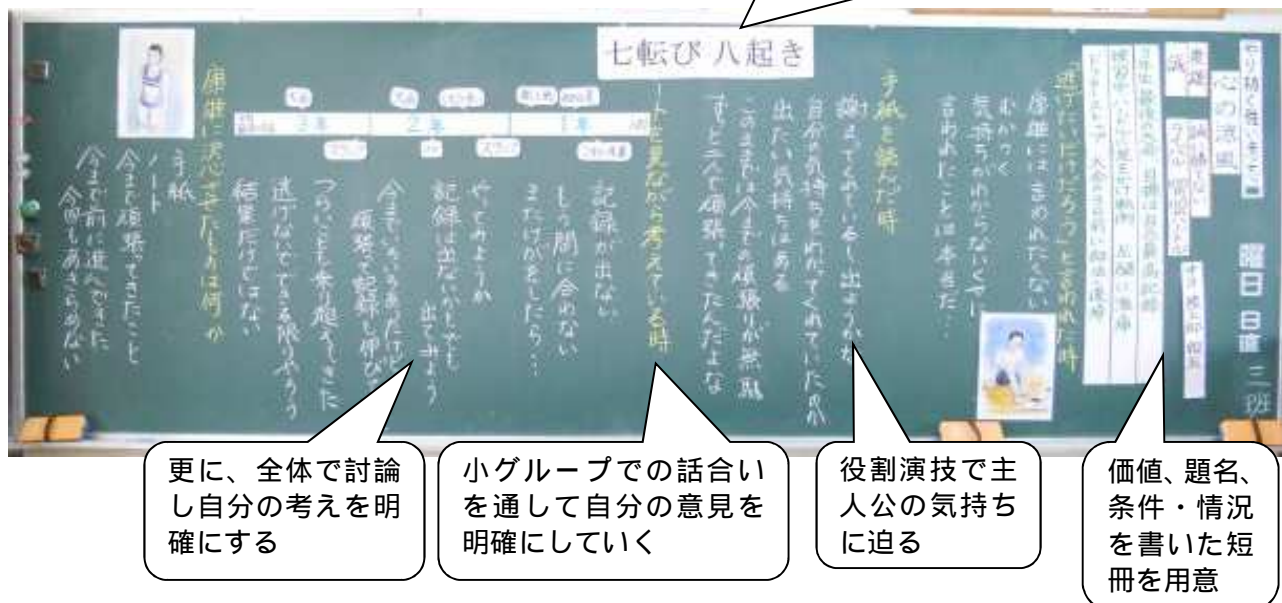
つながる 1名 まあまあつながる 3名

(7) 感想・改善のためのアドバイス

- ・生徒にとって共感できる内容であったので、生徒が関心を持って授業に取り組めたと思う。
- ・設定が3年生という事もあり、1年生にはイメージしづらい部分もあったと思う。「最後の大会」という部分に対する印象が強く残った感がある。
- ・手紙を受け取る前と、手紙の内容から、「謝ったから。」と受け取る生徒が多かったので、もう少しねらいに向けて話し合いが進むよう、配慮が必要と感じた。

5 その他

教師による終末の話で使ったもの



6 これらをふまえた考察（各校に関する考察）

- ・中学生になると思い通りにならないことがあるとわかってくる。安易な方向へ流されるのではなく、今までの努力やこれからの人生を考えると、今、自分の思い通りにならなくても一步一步努力して前進していくことが大切だと考えるため、価値項目 1 - (2) は適している。
- ・小学校から中学校と環境が変わり、誰もが抱える不安な気持ちが資料と重なる。しかし、現在の努力は決して無駄ではない。失敗は成長への過程。過程が大切と考えるため価値項目 1 - (2) は適している。
- ・資料の内容は中学生に身近で、共感を得やすく、自分自身のこととして考えやすい。

改善点

- ・ 話を深める工夫が併記されているとよい。
- ・ ねらいからそれないための注意点が書かれているとよい。

考察

- ・内容項目については、１－（２）以外、いくつかあるとよいと思われる。
- ・指導案に写真を入れるなど、授業の様子がイメージしやすいようにしておくが良い。

中学校授業例を活用した検証授業についての成果と課題

1 自己有用感、自尊感情等の観点について

(1) 成果

- ・今回の授業実践を通して、自己有用感や自尊感情等についての実践意欲が見られた。事前のアンケート等による分析では、中学校に入学し、環境の大きな変化の中で自己有用感や自尊感情が低下する傾向が見られたが、授業後の生徒の変容を分析すると、実践意欲をもってこれからの生活に取り組もうとする姿勢が、多くの生徒に見られた。

(2) 課題

- ・課題としては、その要に据えた道徳の授業だけでなく、事前や事後の取組を通して、総合的に自己有用感や自尊感情を育んでいく必要がある。道徳の授業だけでなく、事前や事後に他の領域と関連付けることでより効果のある取組にすることができる。例えば、中学校においては、「キャリア教育」「ライフスキル教育」等との関連を図るなど、生徒の実態を生かした総合的横断的な計画を立てて取り組むことは効果がある。
- ・本研究で示した小中連携モデルプランにこの授業を位置づけ、他の領域と関連づけることで道徳の授業で学んだことを、実践に生かしていくという視点で、自己有用感、自尊感情の育成を目指し、生徒に働きかけていく必要がある。

2 中1ギャップ解消という観点について

(1) 成果

- ・道徳の授業がもつ特性として、資料の中には今の自分の姿と目標とすべき姿が描かれていることがある。このことは、生徒が今、悩み苦しんでいることに対してどのように対処すれば良いかが示されているということである。生徒の感想の中にも、資料をモデルにし、その主人公の生き方に触れ、今後の生活をよりよく生きようとする姿勢が見られた。本授業の資料では、主人公が同じ中学生であり、内容も部活動に関することなので、生徒はとても共感した。挫折を経験し、苦しんでいる生徒にとっては、よい道しるべになる授業例となった。

(2) 課題

- ・先にも述べたように、道徳の授業だけで完結するものではない。道徳の授業で学んだことを、実際の生活に生かせるようにすることが大切である。そのためには、授業の中で、十分に実践意欲を持たせるとともに、それを生かす場を教師が意図的に設定する必要がある。

3 1 - (2) をねらいとした授業としての効果

(1) 成果

- ・中1ギャップを解消するという観点から道徳の授業を見た時に、内容項目 1 - (2) を扱うことはとても有効である。中1ギャップの原因として、目標を見失うこと、努力する意欲が低下することが考えられるからである。今回の資料では、目標に向かって挫折を経験してもやる抜くことで充実感や爽快感を味わっている主人公についての話合いを通して、自己を見つめ直し、自己有用感や自己存在感を高めることがねらいの一つである。この授業例の特徴

を十分生かして、授業に取り組むことが重要である。

(2) 課題

- ・本授業の資料では、教師が明確に指導観をもって取り組みたい。「友情・信頼」の内容項目に視点をあてると、話合いの方向性がずれ、十分に深まらない恐れがある。発問の内容をよく考え、生徒の実態に合わせた補助発問を用意し、ねらいに対して十分に深めさせる話合いを仕組みたい。

4 「その他」や「考察」等で配慮すべき視点の例

(1) 成果

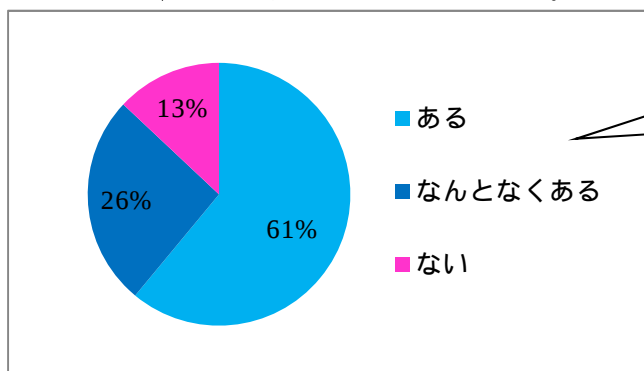
- ・本授業では、様々な話合いの形式が工夫されていることが特色である。ロールプレイや班活動を取り入れることで、様々な視点から、多様な意見を引き出せるような工夫が随所に織り込まれている。その結果、経験が浅い教師であっても取り組みやすく、また事前や事後の取組も紹介することで、より効果が出やすくなっていると考ええる。

(2) 課題

- ・今回の授業で工夫されたロールプレイや小集団の話合いは、本時だけで行うとうまくいかない。普段の道德の授業から慣れさせておく必要がある。道德の授業は長期的視野をもってじっくりと作っていきたい。

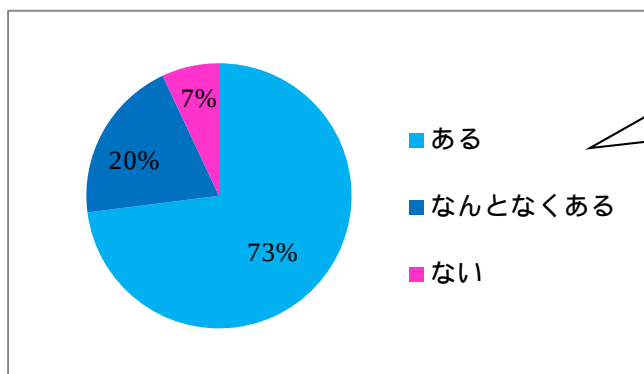
中学校生徒向けアンケート結果より (2 校 7 学級)

Q 1 あなたには、将来の夢や目標がありますか。



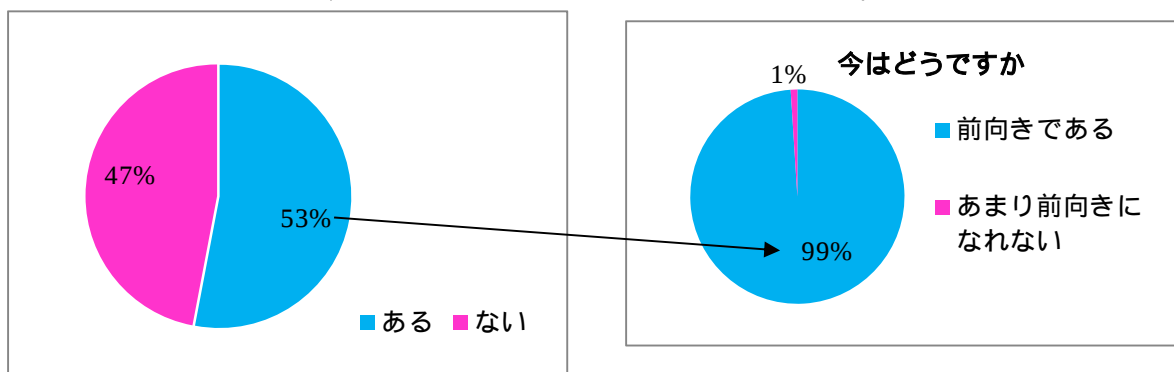
「ある」、「なんとなくある」と答えた生徒の約 70% が、将来就きたい職業を書いていた。その他は成績や進路について書いていた。

Q 2 あなたには、3 年間の部活動で最終的な目標はありますか。



「ある」、「なんとなくある」と答えた生徒の解答は、運動部については県大会出場と書いた生徒が多く、レギュラーになること、記録を伸ばすなども挙がっていた。文化部の生徒はコンクール入賞などが挙がっていた。

Q3 今までの部活動において、前向きになれなかったことはありますか。



「前向きになれないことがあった」と答えた生徒の、授業後の感想

- ・ 私は、今日「心の涼風」の勉強をして、何事もあきらめてはいけないんだなあと思いました。もうダメだと思いあきらめてしまえば、そこで何もかも終わってしまい悔いが残ってしまうと思いました。なので、私自身も3年生最後の大会の時や、普段の試合の時もあきらめず最後までやりたいと思いました。
- ・ 今日この勉強を通して何があってもあきらめないという事を学びました。私も今まであきらめようと思ったことはたくさんありました。あきらめてしまったこともありました。七転び八起きという言葉がありますが、あきらめてはいけないという事を改めて思いました。これからはあきらめず、なんでもやってみたいと思います。
- ・ 今日この学習をして、学んだことが2つあります。1つ目は何事もあきらめないことです。2つめはすべてやりきることです。2つともやって初めて1つのことが達成できるということです。